阪南市埋蔵文化財報告 52

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 31

２０１４年

阪南市教育委員会

はしがき

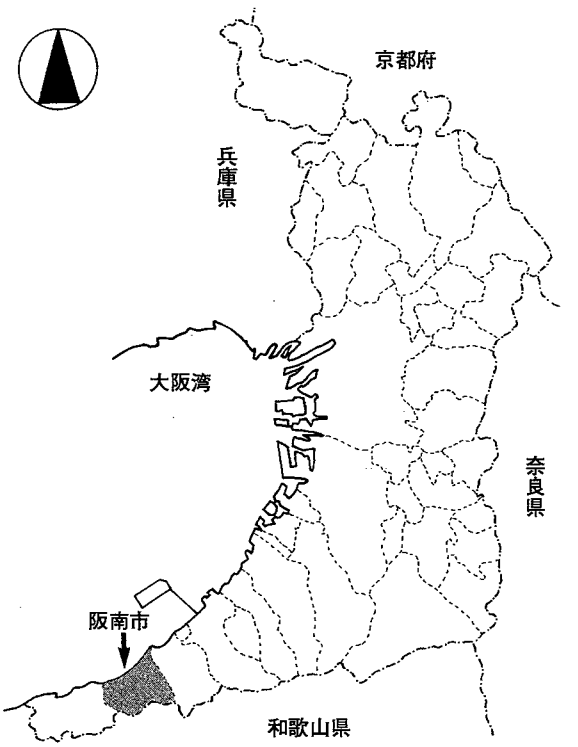
阪南市は北に大阪湾を隔てて淡路島を望み、南は和泉山脈を越えて和歌山県にいたる大阪府下でも自然豊かな立地に所在しています。

高度成長期に始まった開発の波が自然破壊と共に、多くの遺跡が消滅していく中で、本市教育委員会では昭和60年度より国庫補助を受けて発掘調査を続けてまいりました。その結果、これまでに貴重な資料を得ることができ、地道な作業の積み重ねで、地域に新しい歴史の発見がありました。

本書は平成25年度の国庫補助事業として実施した発掘調査概要報告書です。今後、多方面において、ご活用いただけるよう願っております。

最後になりましたが、発掘調査にあたり、ご協力いただきました土地所有者並びに関係者各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成26年3月31日
阪南市教育委員会



第1図 大阪府阪南市位置図

例　　言

1．本書は、阪南市教育委員会が阪南市内において実施した、阪南市埋蔵文化財発掘調査概要報告書である。
2．調査は、平成25年度に国庫補助事業として計画実施した。
3．現地における調査は、阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進室田中早苗、上野　仁、大川　健(嘱託)を担当とし、平成25年１月から12月にかけて行った。
4．本書内で示した標高はＴ．Ｐ．(東京湾平均海面)を基準としている。
5．発掘調査にあたっては土地所有者等、関係者各位の理解と協力を得た。ここに記して感謝の意を表したい。
6．土層の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修　小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』(2000年版)を使用した。
7．本書における記録は実測図、写真、カラースライド等で保存し、当委員会にて保管しているので、広く活用されたい。
8．本書の執筆、編集は上記の調査担当者が行った。
9．発掘調査および整理作業に以下の方々の参加を得た。
根無吉隆、南　竹千代、杉田正千代、古牧　敬、滑田幸男、和田旬世、
井上祥子、井上　進、島田万帆

目　　次

第１章　調査の成果

第１節　尾崎海岸遺跡	（１）１２－４区	1
第２節　尾崎清水遺跡	（１）１２－１区	2
	（２）１３－１区	4
第３節　鳥取・鳥取南遺跡	（１）１３－１区	5
第４節　鳥取南遺跡	（１）１３－１区	6
	（２）１３－２区	7
第５節　西鳥取遺跡	（１）１３－１区	１１
	（２）１３－２区	１２
第６節　向出遺跡	（１）１３－１区	１４
第７節　自然田遺跡	（１）１３－１区	１６
第８節　貝掛遺跡	（１）１３－２区	１７
第９節　箱作今池遺跡	（１）１２－４区	１９
	（２）１２－５区	２０
	（３）１３－１区	２０
第10節　田山東遺跡	（１）１２－８区	２２
	（２）１３－１区	２５
	（３）１３－２区	２６
	（４）１３－３区	２６
	（５）１３－４区	２７
第11節　田山遺跡	（１）１２－１区	２８
	（２）１３－１区	２９
第12節　貝掛範囲外	（１）１３－１区	３１

第２章　まとめ　３２

報告書抄録　３３

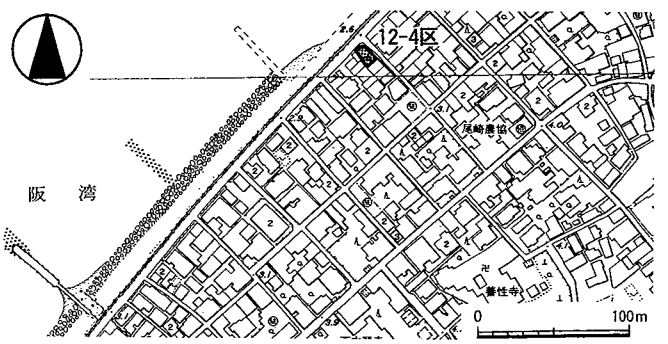
1 皿田池古墳
2 平野寺(長楽寺)跡
5 玉田山古墳群
6 玉田山遺跡
7 寺田山遺跡
8 桑畑石切場跡群
9 石田山遺跡
10 (重文)波太神社本殿・末社三神社
(府指)有文波太神社三十六歌仙扁額
12 黒田北遺跡
13 亀川遺跡
14 三本松東遺跡
15 水附遺跡
19 貝掛遺跡
20 神光寺(蓮池)遺跡
21 田山西遺跡
22 田山遺跡
23 (府指)有文 加茂神社本殿
24 箱作今池遺跡
25 茶屋遺跡
26 四郎太郎遺跡
27 山中渓石切場跡群
30 師道谷遺跡
31 箱作細谷石切場跡
32 玉田山須恵器窯跡
34 井関遺跡
35 自然田遺跡
36 福島遺跡
37 飯ノ峯畑遺跡
38 金剛寺遺跡
39 馬川遺跡
40 内畑遺跡
41 下出北遺跡
42 室堂遺跡
43 向出遺跡
44 久保田遺跡
45 高田西遺跡
46 高田南遺跡
47 向山遺跡
48 小口谷遺跡
49 西畑遺跡
50 正方寺遺跡
51 黒田南遺跡
52 黒田西遺跡
53 鳥取遺跡
54 鳥取北遺跡
55 鳥取南遺跡
56 西鳥取遺跡
57 戎遺跡
58 田山東遺跡
59 箱作南遺跡
60 山中渓遺跡
61 馬川北遺跡
62 和泉鳥取遺跡
63 箱作西遺跡
65 尾崎海岸遺跡
66 下出遺跡
67 黒田遺跡
68 尾崎清水遺跡
69 波有手遺跡
70 高田遺跡
71 道弘寺跡
73 箱作谷川石切場跡
74 亀川西遺跡
75 亀川北遺跡

第2図 阪南市埋蔵文化財分布図

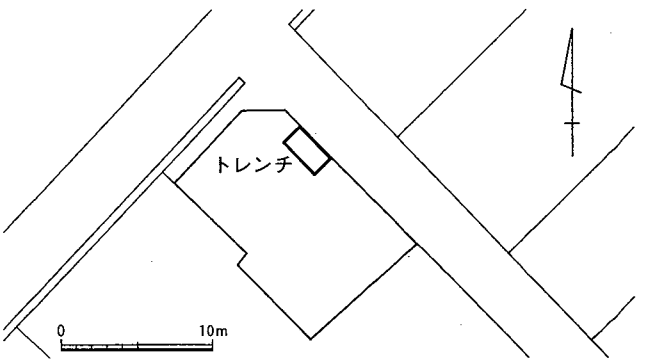
第１章　調査の成果

第１節　尾崎海岸遺跡

尾崎海岸遺跡は阪南市北東部に位置し、現海岸線と浜街道に挟まれた東西約300m、南北約150mの遺跡である。近世期の尾崎村、現在の尾崎地区の中心地とほぼ一致する。平成２年度の住宅建築工事の折に発見された。その調査では砂地に焼けた石が約３㎡四方に敷き詰められ、その上に弥生時代終末期から古墳時代初頭にかけての製塩土器や蛸壺等が多数散乱する製塩遺構が検出された。その後の調査では、近世期の生活雑器が多く出土しているものの、製塩関係の遺構・遺物は検出されていない。



第３図　尾崎海岸遺跡　調査区位置図



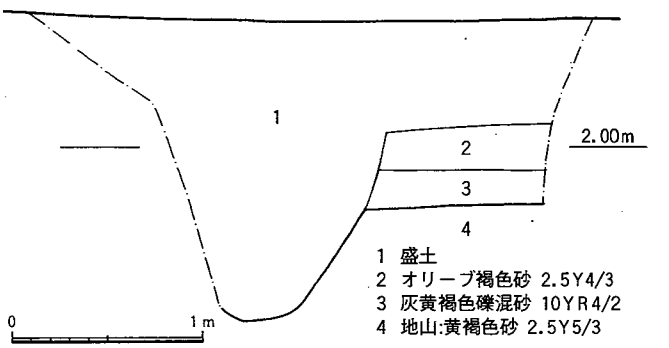
第４図　尾崎海岸遺跡12-4区　トレンチ位置図

（１）12－４区（第３～６図）

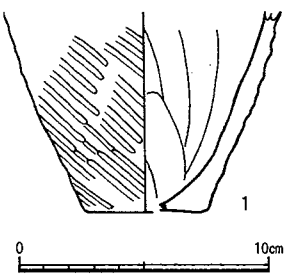
調査区は尾崎海岸遺跡の北部に位置する。調査区に1.5m×3.0mのトレンチを設定し、調査を実施した。

基本層序は第１層盛土、第２層オリーブ褐色砂2.5Y4/3、第３層灰黄褐色礫混砂10YR4/2、第４層黄褐色砂2.5Y5/3で、第４層は地山であるが、トレンチ南部は既設の建物等により地山まで撹乱を受けていた。地山は地表面から約－1.00mで検出した。

遺物は第２・３層から中世期の土師質真蛸壺、陶器、近世瓦、砥石が出土した。出土遺物より第２・３層の時代は近世期である。また、第１層から中世、近世、近代遺物の他、１の弥生時代の真蛸壺が出土した。遺構は検出されなかった。



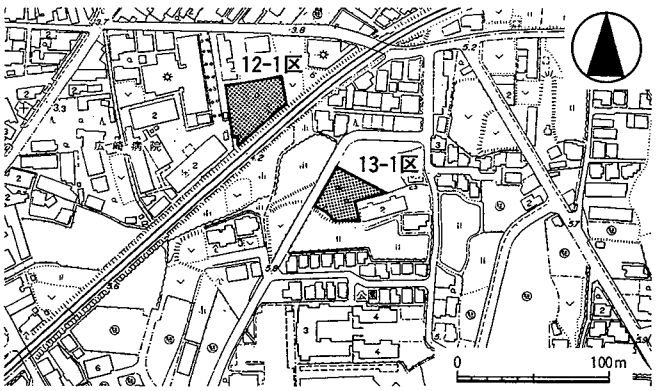
第５図　尾崎海岸遺跡12-4区　トレンチ西側断面図



第６図　尾崎海岸遺跡
12-4区　出土遺物

第２節　尾崎清水遺跡

尾崎清水遺跡は平成４年度の民間開発工事に伴う事前調査で発見された遺跡である。その後の調査では、遺物包含層から縄文時代晩期から近世期の遺物や古墳時代中期の竪穴住居が検出されている。また、平成23年度の調査では縄文時代の遺物を含む河川が、古墳時代には湿地や居住地になり、中世期に入ると湿地部は農地へと整備されていくという変遷が明らかとなった。

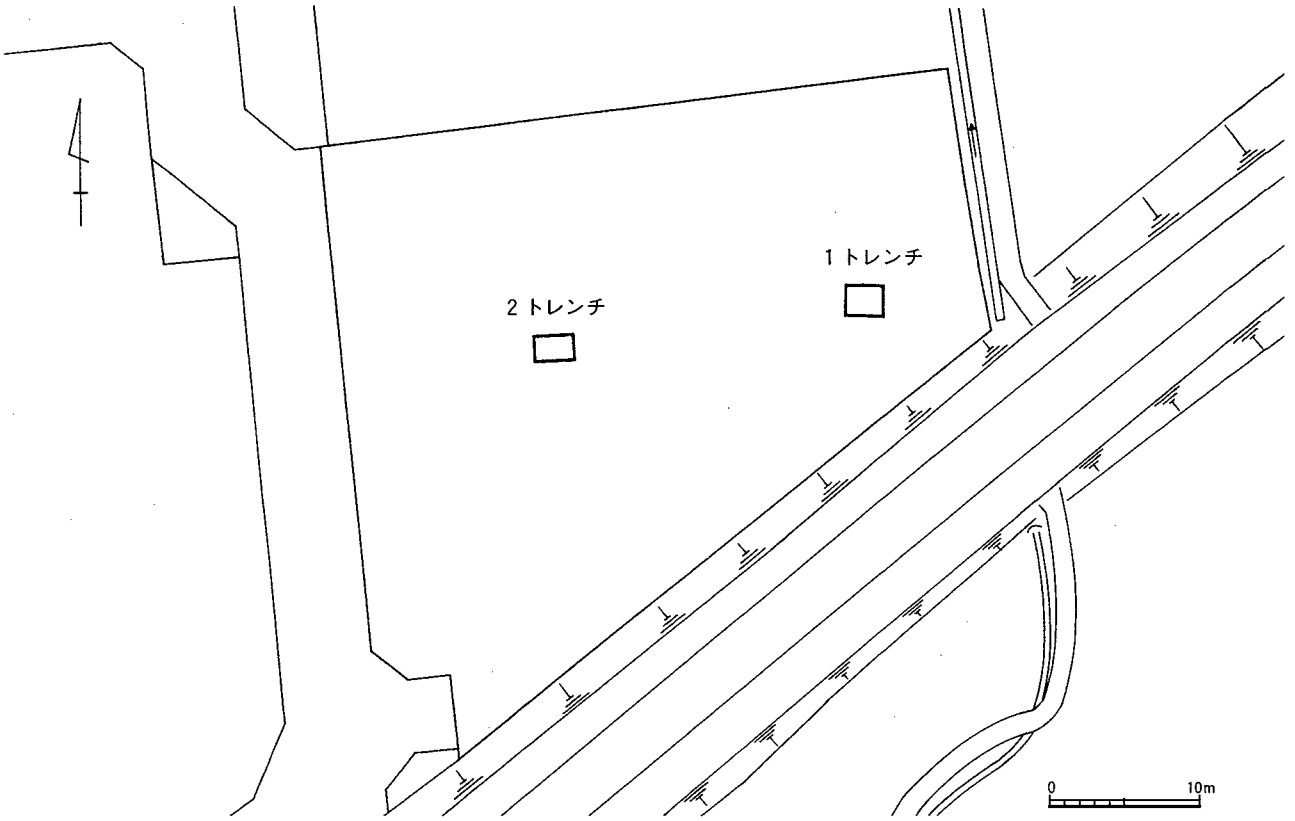


第７図　尾崎清水遺跡　調査区位置図

（１）12－１区（第７～10図）

調査区は尾崎清水遺跡の北部に位置する。調査区に２ヶ所のトレンチを設定し、合わせて10.14㎡の調査を実施した。

基本層序は第１層耕作土、第２層床土、第３層暗褐色風化礫混土10YR3/3、第４層にぶい黄褐色土10YR5/3、第５層オリーブ色砂混粘質土5Y6/6、第６層オリーブ褐色礫混砂質土2.5Y4/3、第７層暗オリーブ褐色砂質土2.5Y3/3で、第５層以下は地山である。地山は地表面から約－0.35mで検出した。

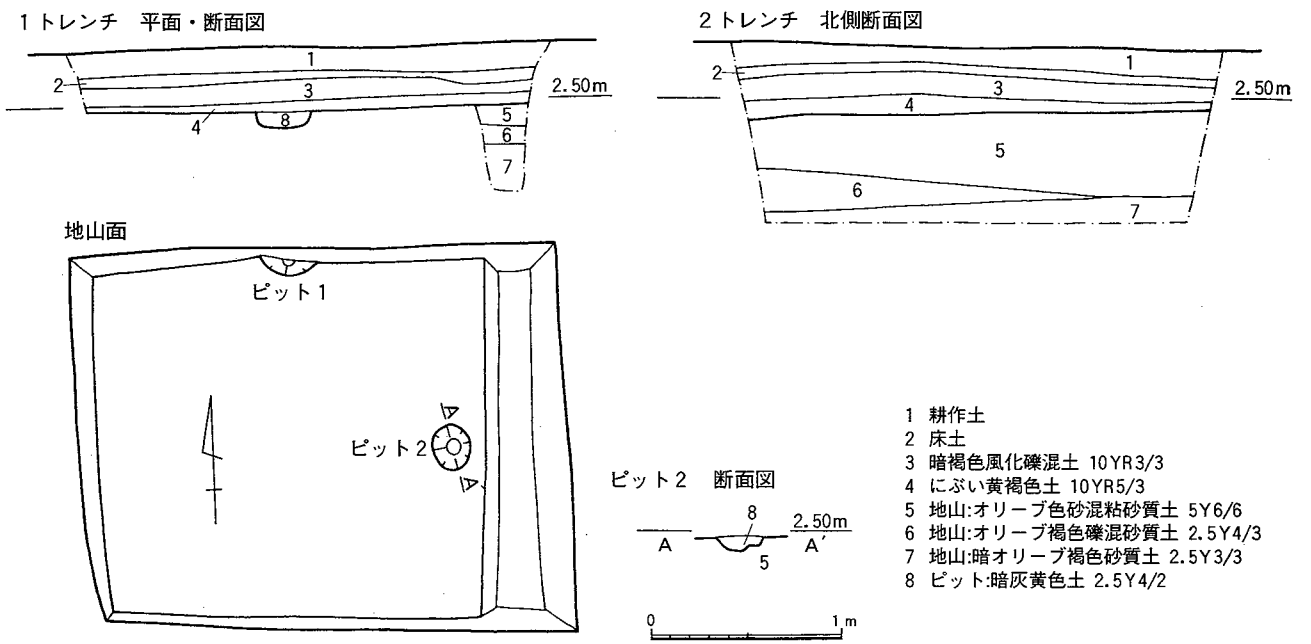


第８図　尾崎清水遺跡12-1区　トレンチ位置図

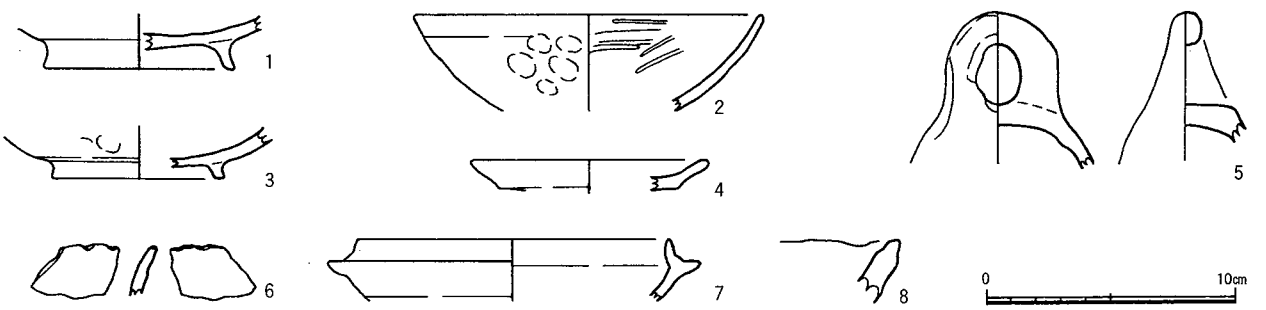
遺物は第３層からサヌカイト片、須恵器、黒色土器、瓦器、土師質土器、製塩土器、土師質真蛸壺・飯蛸壺、中世瓦、第4層からサヌカイト片、縄文土器、須恵器、黒色土器、瓦器、土師質土器、製塩土器が出土した。第３・４層の時代は中世期である。１は黒色土器椀、２・３は瓦器椀、４は瓦器皿、５は土師質飯蛸壺で、第３層から出土した。６は口縁端部にＶ字刻のある縄文土器深鉢、７は須恵器杯身、８は奈良時代の製塩土器で、第４層から出土した。

遺構は１トレンチの地山面で、ピットを２基検出した。ピット１は直径0.30m以上、深さ0.09mを測るが、北部はトレンチ外である。埋土は暗灰黄色土2.5Y4/2である。ピット２は直径0.24m、深さ0.08mを測る。埋土はピット１と同じである。いずれのピットからも遺物は出土していないが、時代は中世期もしくはそれ以前と考えられる。

今回の試掘調査の結果を受け、本調査を行うこととなった。



第９図　尾崎清水遺跡12-1区　トレンチ平面・断面図



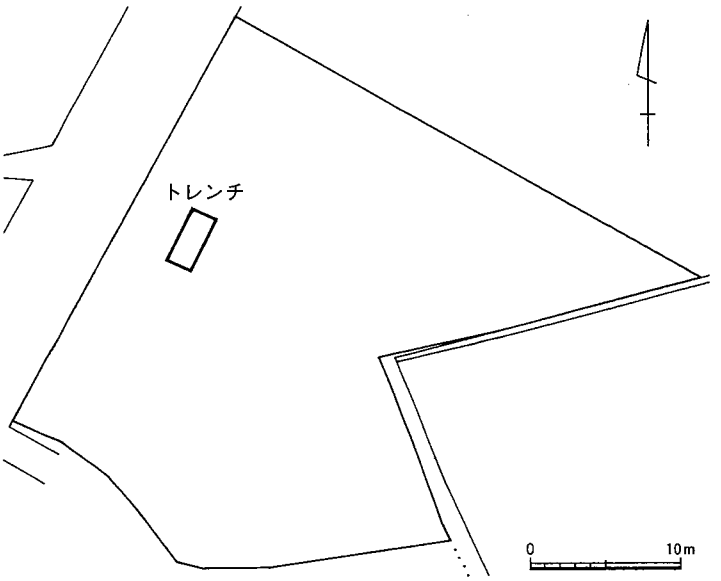
第10図　尾崎清水遺跡12-1区　出土遺物

（2）13−1区（第７・11図）

調査区は尾崎清水遺跡の中央部に位置する。調査区に1.8m×4.0mのトレンチを設定し、調査を実施した。

基本層序は第１層盛土、第２層耕作土、第３層褐色礫10YR4/4で、第３層は地山である。地山は地表面から約−1.10mで検出した。

遺物は出土せず、遺構も検出されなかった。



第11図　尾崎清水遺跡13-1区　トレンチ位置図

第３節　鳥取・鳥取南遺跡

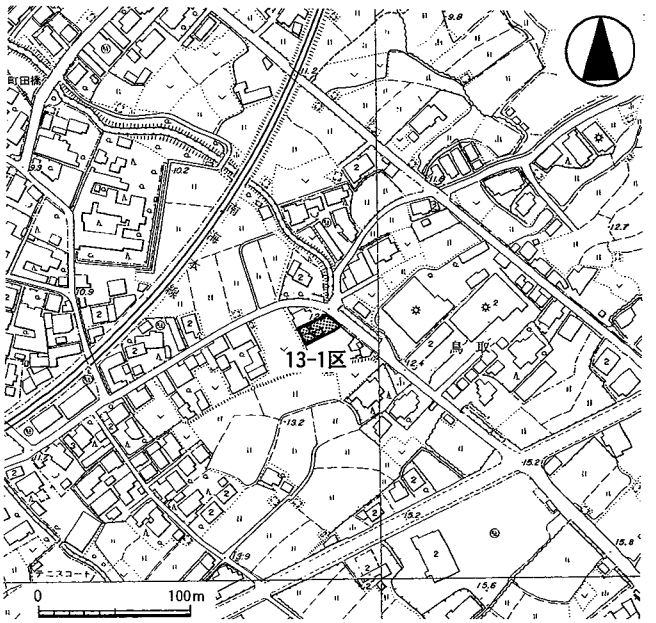
（１）13−1区（第12～14図）

調査区は鳥取遺跡の西端部と鳥取南遺跡の東端部にまたがる場所に位置する。調査区に1.2m×2.1mのトレンチを設定し、調査を実施した。

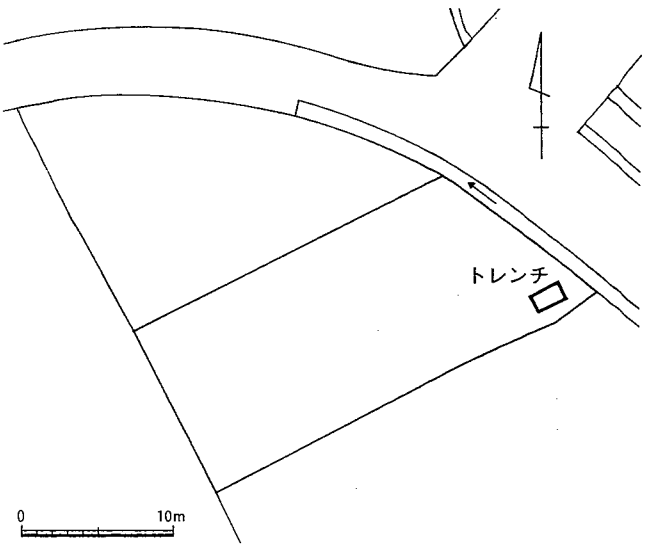
基本層序は第１層盛土、第２層耕作土、第３層床土、第４層褐色砂質土10YR4/4、第５層黄褐色粘土10YR5/8、第６層オリーブ褐色礫混土2.5Y4/3で、第６層は地山である。地山は地表面から約−0.50mで検出した。

遺物は第３層から土師質土器が出土したのみで、第４・５層は遺物が出土しなかったため、時代は不明である。

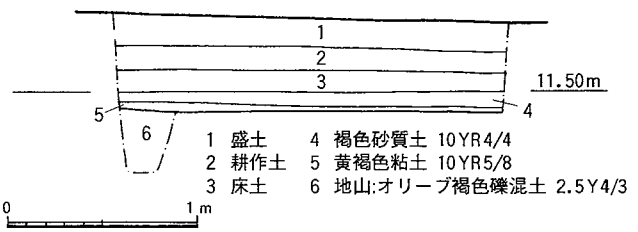
遺構は検出されなかった。



第12図　鳥取･鳥取南遺跡　調査区位置図



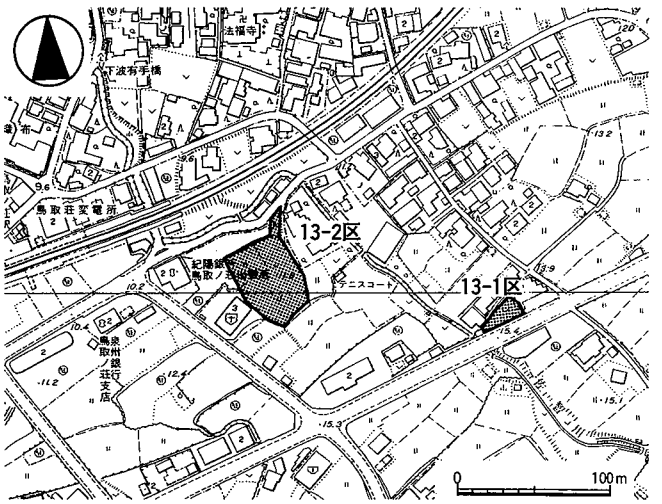
第13図　鳥取･鳥取南遺跡13-1区　トレンチ位置図



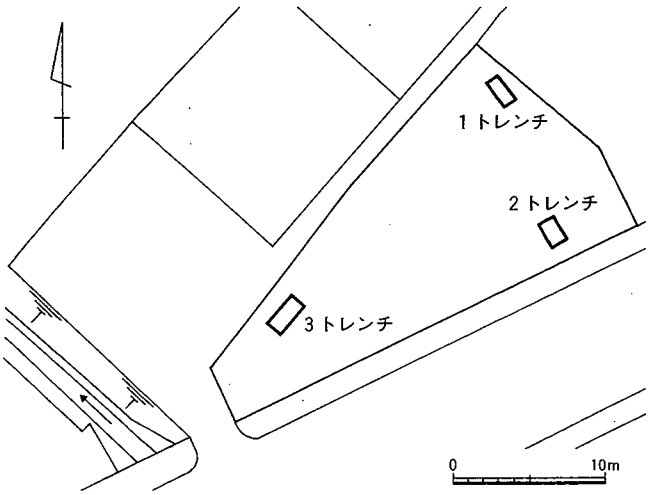
第14図　鳥取･鳥取南遺跡13-1区
トレンチ南側断面図

第４節　鳥取南遺跡

鳥取南遺跡は、昭和63年度に阪南町教育委員会(当時)が実施した埋蔵文化財分布調査によって発見された遺跡である。既往の調査では、弥生時代後期から中期にかけての遺構、遺物が検出されているが、遺跡の詳細な性格は現在のところ不明である。



第15図　鳥取南遺跡　調査区位置図

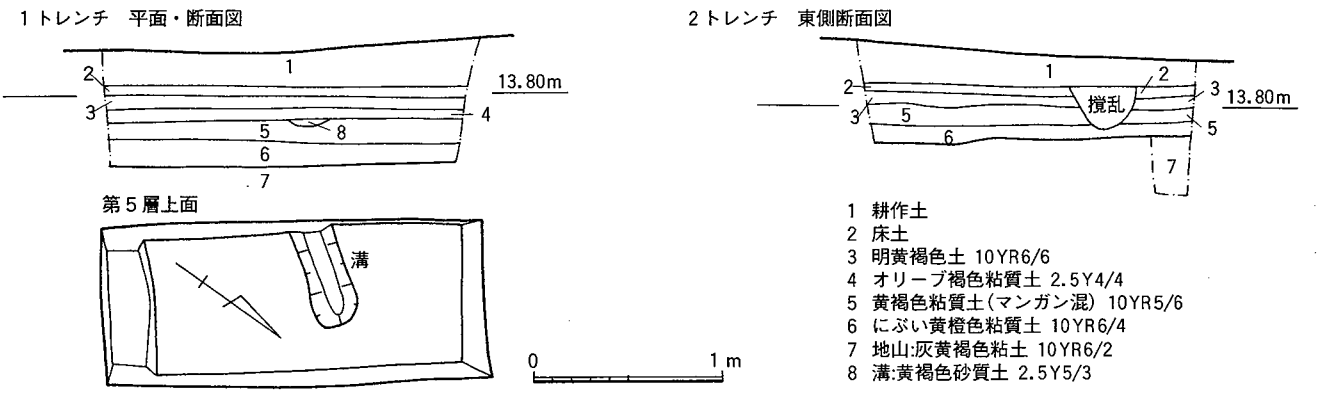


第16図　鳥取南遺跡13-1区　トレンチ位置図

（１）13―1区（第15～18図）

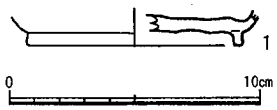
調査区は鳥取南遺跡の中央部で、佐智川の右岸に位置する。調査区に３ヶ所のトレンチを設定し、合わせて6.53㎡の調査を実施した。

基本層序は第１層耕作土、第２層床土、第３層明黄褐色土10YR6/6、第４層オリーブ褐色粘質土2.5Y4/4、第５層マンガン混じりの黄褐色粘質土10YR5/6、第６層にぶい黄橙色粘質土10YR6/4、第７層灰黄褐色粘土10YR6/2で、第７層は地山である。２・３トレンチでは第４層が存在しなかった。



第17図　鳥取南遺跡13-1区　トレンチ平面・断面図

遺物は第３層から土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、土師質土器、土師質真蛸壺、第４層から須恵器、瓦器、土師質土器、第５・６層からそれぞれ土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、土師質土器、製塩土器が出土した。いずれも中世期の包含層である。１は須恵器杯身で第６層から出土した。



第18図　鳥取南遺跡13-1区
出土遺物

遺構は第５層上面で溝を1条検出した。長さ0.50m以上、幅0.24m、深さ0.04mを測る。埋土は黄褐色砂質土2.5Y5/3で、遺物は出土しなかったが、中世期の溝と思われる。

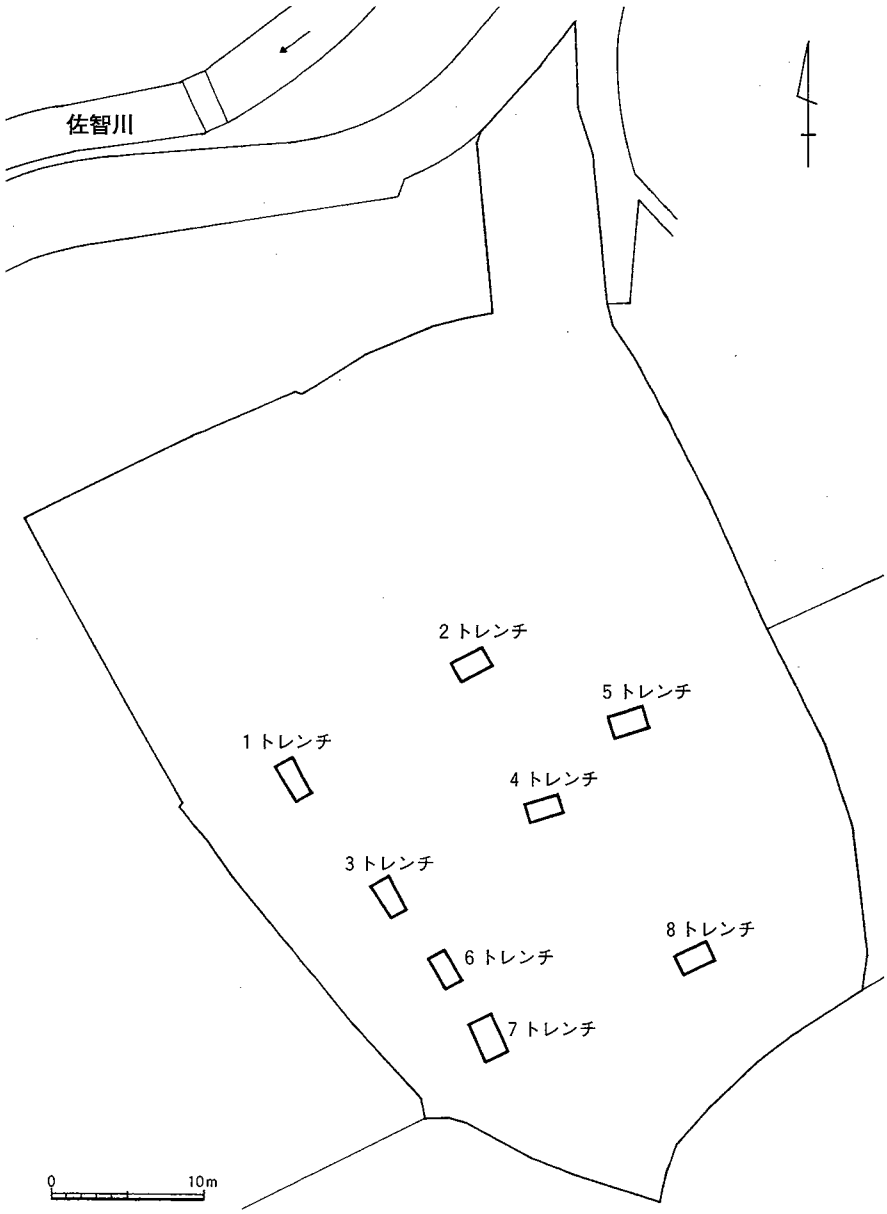
今回の試掘調査の結果を受け、本調査を行うこととなった。

（２）13－2区（第15・19～22図）

調査区は鳥取南遺跡の南部に位置し、東と北側の約50mの付近を佐智川がほぼ直角に曲がって流れる。

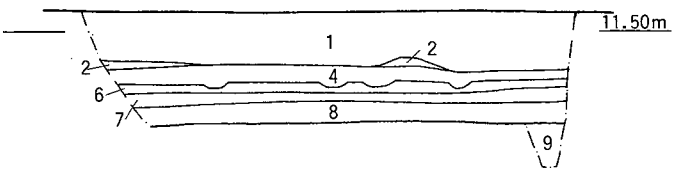
調査区に８ヶ所のトレンチを設定し、合わせて28.13m²の調査を実施した。

基本層序は第１層盛土、第２層耕作土、第３層床土、第４層灰褐色砂質土7.5YR6/2、第５層褐灰色土10YR6/1、第６層にぶい黄橙色土10YR6/4、第７層マンガン混じりのにぶい黄色土2.5Y6/3、第８層マンガン混じりの暗オリーブ褐色粘質土2.5Y3/3、第９層マンガン混じりの黄褐色粘土10YR5/6、第10層褐色礫混土7.5YR4/4、第11層

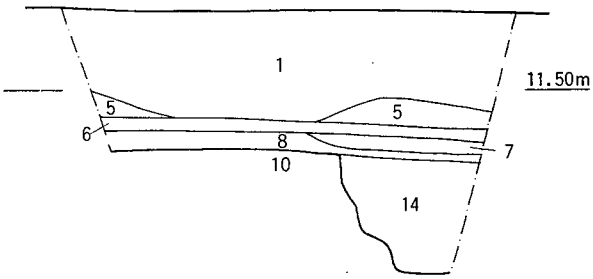


第19図　鳥取南遺跡13-2区　トレンチ位置図

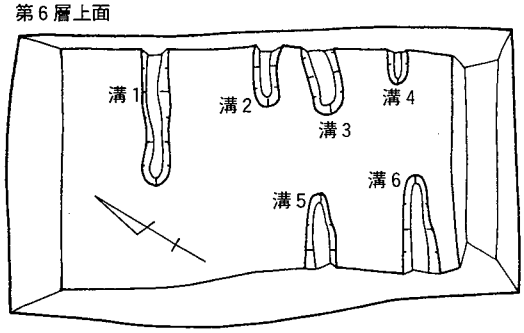
1トレンチ　平面・断面図



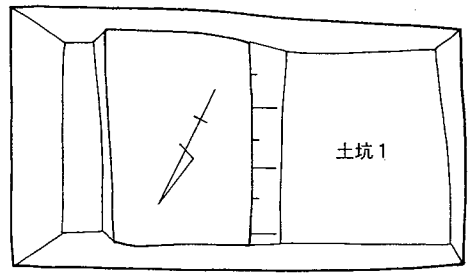
2トレンチ　平面・断面図



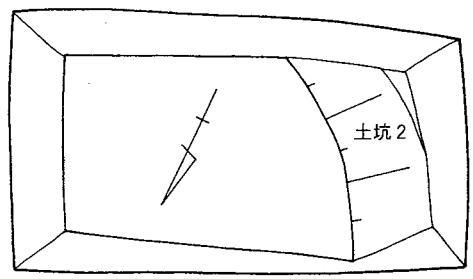
第6層上面



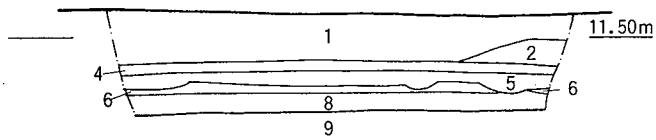
第8層上面



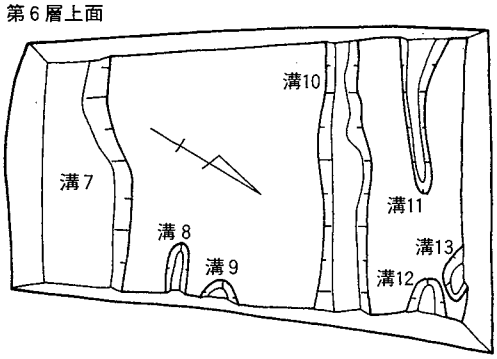
地山面



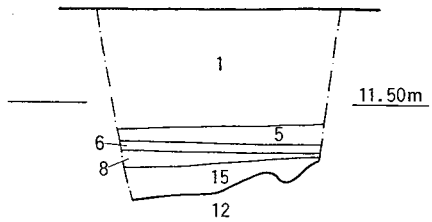
3トレンチ　平面・断面図



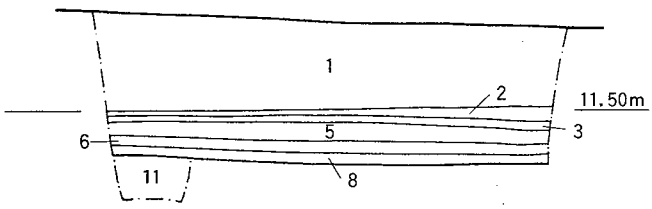
第6層上面



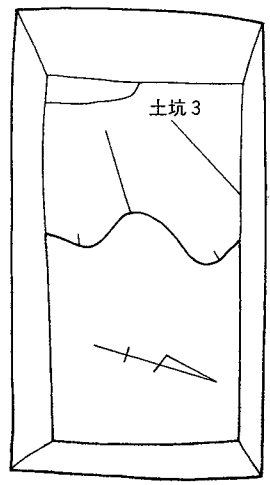
4トレンチ　平面・断面図



5トレンチ　南側断面図



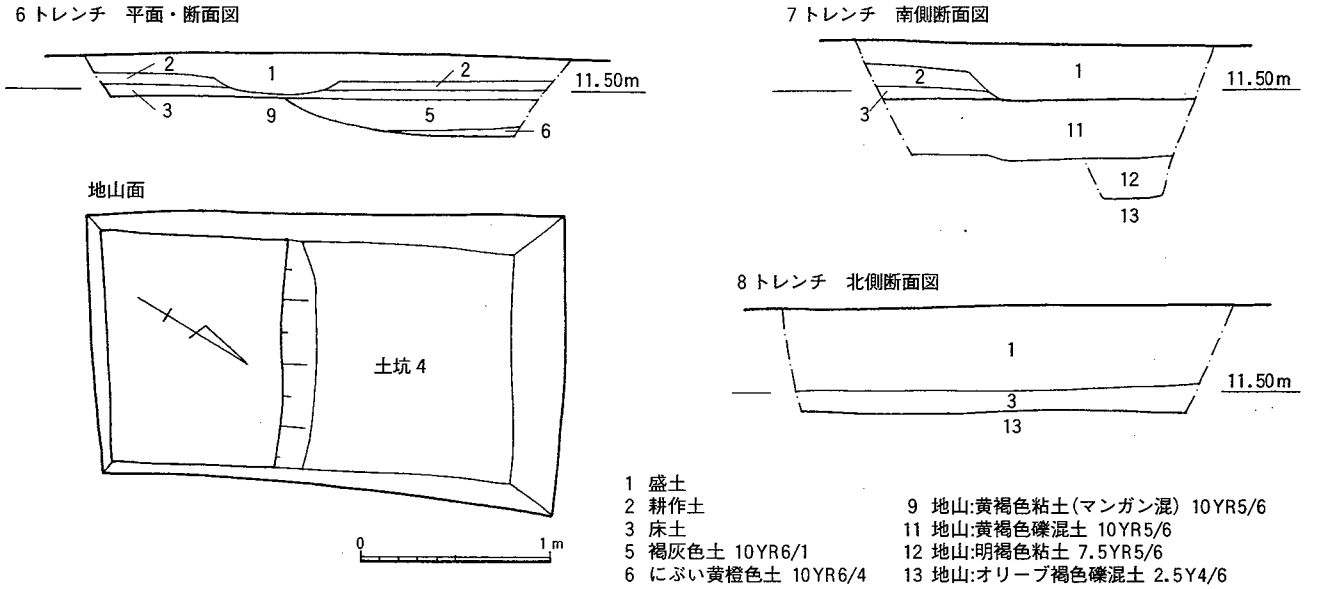
地山面



1 盛土
2 耕作土
3 床土
4 灰褐色砂質土 7.5YR6/2
5 褐灰色土 10YR6/1
6 にぶい黄橙色土 10YR6/4
7 にぶい黄色土(マンガン混) 2.5Y6/3
8 暗オリーブ褐色粘質土(マンガン混) 2.5Y3/3
9 地山:黄褐色粘土(マンガン混) 10YR5/6
10 地山:褐色礫混土 7.5YR4/4
11 地山:黄褐色礫混土 10YR5/6
12 地山:明褐色粘土 7.5YR5/6
14 土坑2:黒褐色風化礫混粘土 7.5YR3/1
15 土坑3:暗褐色風化礫混粘質土 10YR3/3

0　1m

第20図　鳥取南遺跡13-2区　トレンチ平面・断面図



第21図　鳥取南遺跡13-2区　トレンチ平面・断面図

黄褐色礫混土10YR5/6、第12層明褐色粘土7.5YR5/6、第13層オリーブ褐色礫混土2.5Y4/6である。第９～12層は地山である。１トレンチでは第５層、２トレンチでは第４層、３トレンチでは第７層、４・５トレンチでは第４・７層、６トレンチでは第４・７・８層が存在せず、７・８トレンチでは第３層より下は地山である。地山は地表面から約－0.25～0.80mで検出し、調査区北部は南部に比べ、約0.30m低い。

遺物は第４～８層から須恵器、瓦器、土師質土器がそれぞれ出土し、それ以外に第４層では瓦質管状土錘、第５層では瓦質土器、製塩土器、第６層では土師器、土師質真蛸壺、陶器、第７層では片岩、土師器が出土した。１は須恵器杯身で第６層から出土した。第６層から近世陶器が出土しているため第４～６層は近世期、第７・８層は中世期の包含層である。

遺構は第６層上面で溝を13条、第８層上面で土坑を１基、地山面で土坑を３基検出した。

溝１～６は１トレンチの第６層上面で検出した。長さ0.20～0.75m以上、幅0.15～0.20m、深さ0.03mの東西方向の溝である。埋土は第４層と同じで、溝１から土師器、溝６から黒色土器が出土した。第４層が近世期の包含層のため、その時代の鋤溝と思われる。

溝７～13は３トレンチの第６層上面で検出した。溝７は長さ1.20m以上、幅0.45m以上、深さ0.04mである。溝８～13は長さ0.15～1.45m以上、幅0.10～0.30m、深さ0.03mの東西方向の溝である。埋土はいずれも第５層と同じで、溝７から土師器、須恵器、溝８から土師質土器、溝９から瓦器、溝10から瓦器、土師質土器、溝13から瓦器が出土した。第５層が近世期の包含層のため、その時代の鋤溝と思われる。

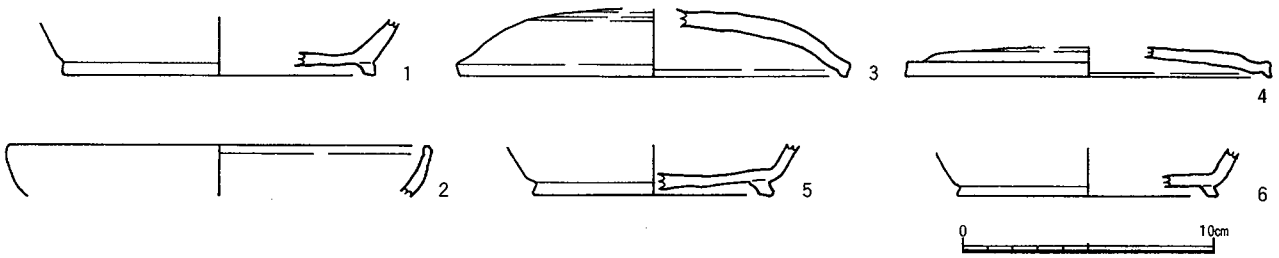
土坑１は２トレンチの第８層上面で検出した。東西1.10m以上、南北1.10m以上、深さ0.08mを測る。埋土は第７層と同じで、遺物は出土していないが、層序により中世期の遺構と思われる。

土坑２は２トレンチの地山面で検出した。東西0.70m以上、南北1.10m以上、深さ0.60mである。埋土は黒褐色風化礫混粘土7.5YR3/1で、土師質土器が出土した。中世期の土坑と思われる。

土坑３は４トレンチの地山面で検出した。東西1.00m以上、南北1.10m以上、深さ0.18mである。埋土は暗褐色風化礫混粘質土10YR3/3で、弥生土器、土師器、須恵器、奈良時代の製塩土器、スサ入り焼土塊が出土した。２は土師器の杯、３～６は須恵器で、３・４は杯蓋、５・６は杯身である。奈良時代の遺構と思われる。

土坑４は６トレンチの地山面で検出した。東西1.20m、南北1.20m以上、深さ0.15mを測る。埋土は上層が第５層、下層が第６層と同じである。遺物は上層から須恵器が出土したが、層序により近世期の遺構と思われる。

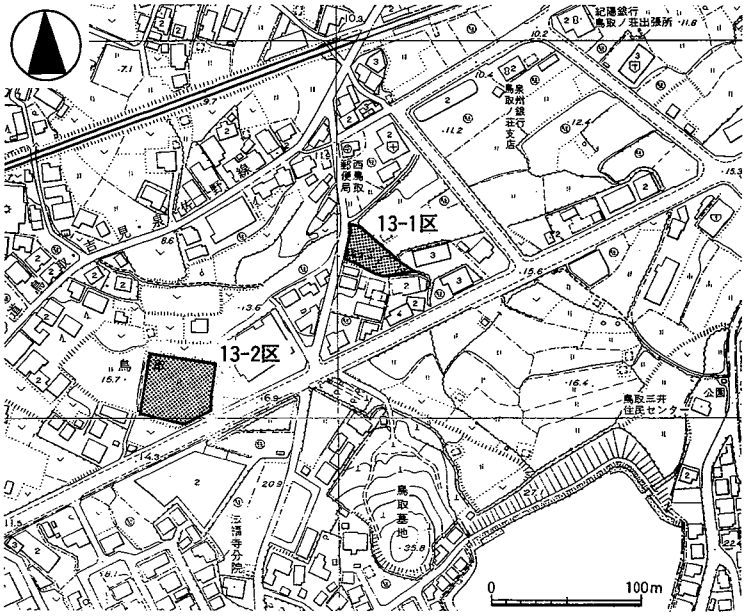
今回の試掘調査の結果を受け、本調査を行うこととなった。



第22図　鳥取南遺跡13-2区　出土遺物

第５節　西鳥取遺跡

西鳥取遺跡は市域の東西に広がる平野部のほぼ中央部に位置する。昭和63年度に阪南町教育委員会(当時)が行った埋蔵文化財分布調査によって発見された。その後、30数件の調査が行われており、中世期の流路と考えられる遺構やその時代の遺物が検出されているが、調査はすべて小規模なもので、遺跡の詳細は現在のところ不明である。

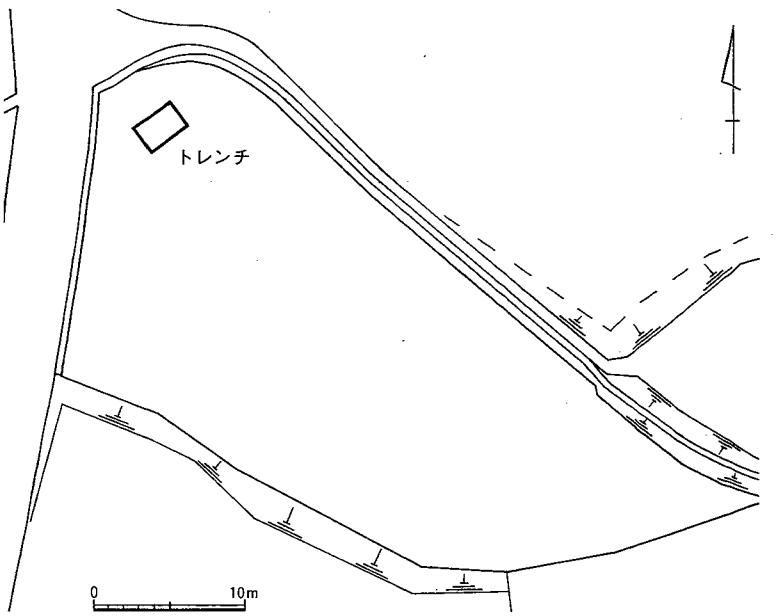


第23図　西鳥取遺跡　調査区位置図

（１）13―1区（第23～26図）

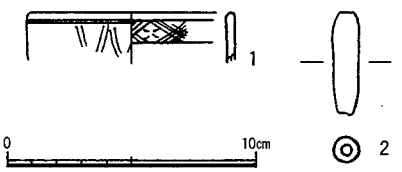
調査区は西鳥取遺跡の南部に位置する。調査区に2.0m×3.0mのトレンチを設定し、調査を実施した。

基本層序は第１層耕作土、第２層にぶい黄橙色砂質土10YR7/4、第３層灰黄褐色砂質土10YR5/2、第４層にぶい黄褐色粘質土10YR5/4、第５層明褐色粘質土7.5YR5/8で、第５層は地山である。地山は地表面から約－0.60mで検出した。

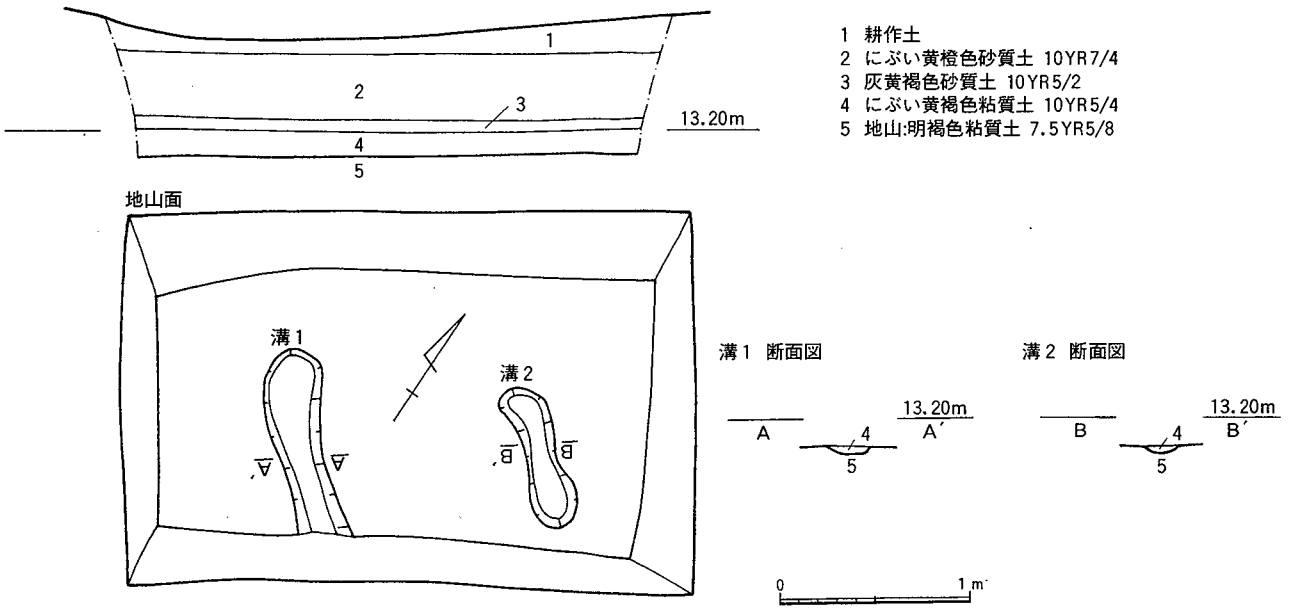


第24図　西鳥取遺跡13-1区　トレンチ位置図

遺物は第２層から土師質真蛸壺、磁器、第３層から土師質土器、第４層から土師質土器、土師質管状土錘が出土した。１は磁器椀で第２層から、２は土師質管状土錘で、第４層から出土した。時代は第２層が近世期、第３・４層は中世期である。



第26図　西鳥取遺跡13-1区
出土遺物



第25図　西鳥取遺跡13-1区　トレンチ平面・断面図

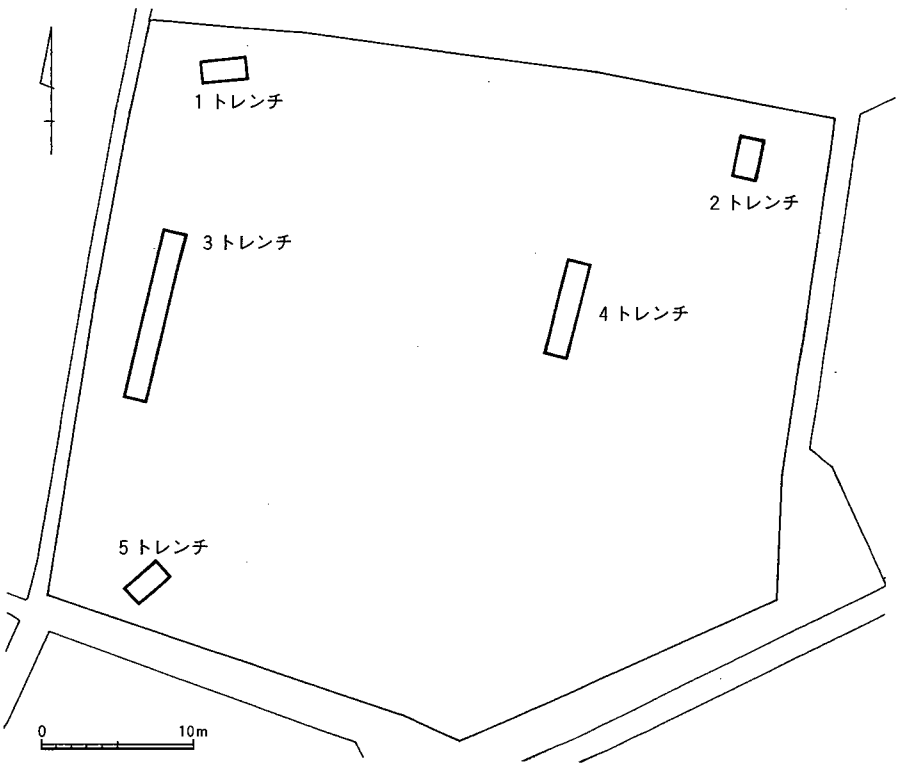
遺構は地山面で溝を２条検出した。溝１は長さ1.06m以上、幅0.30m、深さ0.04mで、２は長さ0.73m、幅0.25m、深さ0.02mである。埋土はいずれも第４層の黄褐色粘質土10YR5/4で、遺物は出土しなかったが、中世期の遺構と思われる。

（２）13―2区

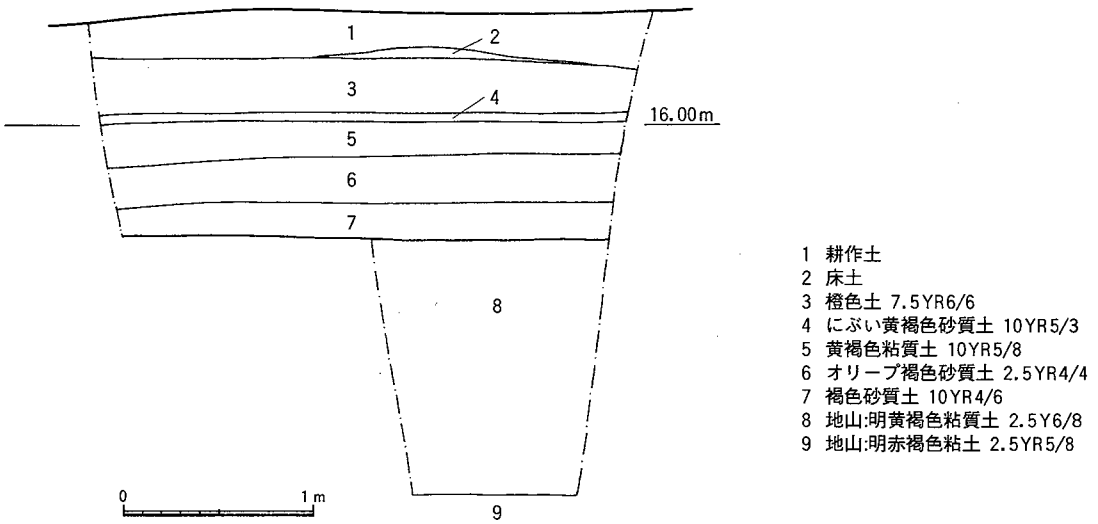
（第23・27・28図）

調査区は西鳥取遺跡の南部に位置する。調査区に５ヶ所のトレンチを設定し、合わせて40.80㎡の調査を実施した。

基本層序は第１層耕作土、第２層床土、第３層橙色土7.5YR6/6、第４層にぶい黄褐色砂質土10YR5/3、第５層黄褐色粘質土10YR5/8、第６層オリーブ褐色



第27図　西鳥取遺跡13-2区　トレンチ位置図



第28図　西鳥取遺跡13-2区　１トレンチ北側断面図

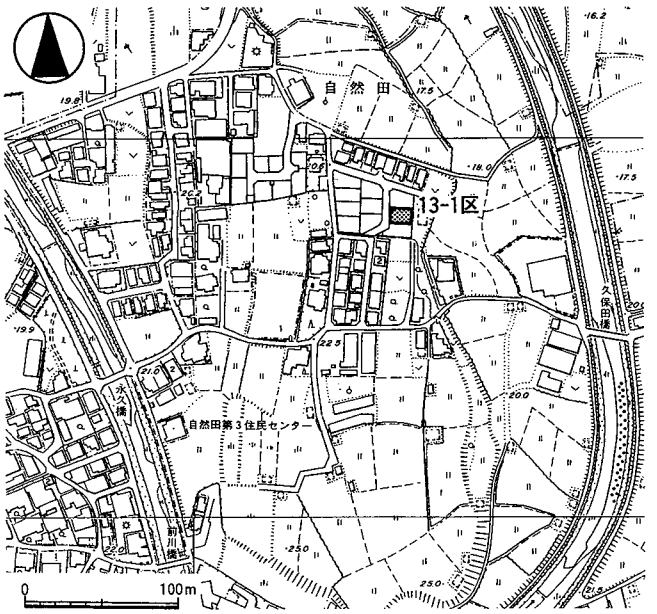
砂質土2.5Y4/4、第７層褐色砂質土10YR4/6、第８層明黄褐色粘質土2.5Y6/8、第９層明赤褐色粘土2.510YR5/8で、第８層以下は地山である。

２トレンチでは第３・４層、３トレンチでは第４・５層、４トレンチでは第４～６層が、南部の５トレンチでは第４～７層が存在しない。

遺物は第６層から陶器、磁器、近世土師質の湊焼が出土したが、いずれも小片のため図化できなかった。近世期の包含層である。他の層からは遺物が出土しなかったため、第６層以外の時代は不明である。

地山高が南部の５トレンチでT.P.+16.20m、北部の１トレンチでT.P.+15.40mとなり、南北の高低差が約0.80m以上であることを、今回の調査で確認できた。

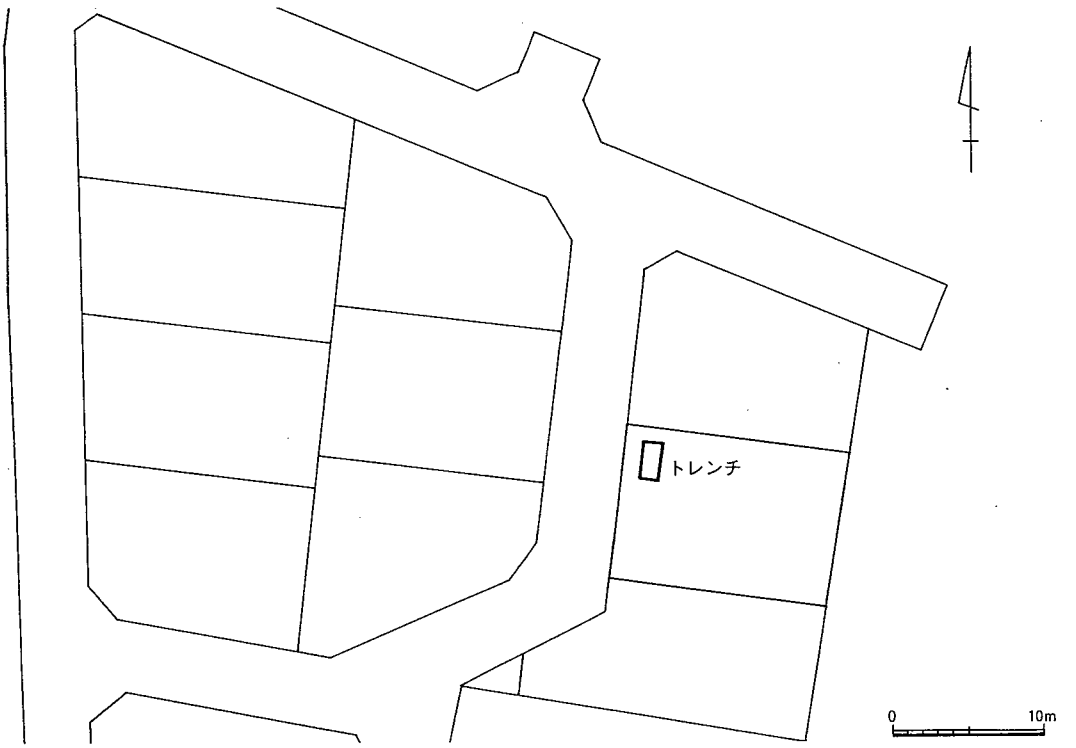
第6節　向出遺跡



第29図　向出遺跡　調査区位置

向出遺跡は、阪南市の東部を流れる男里川の支流である山中川と菟砥川に挟まれた河岸段丘とその氾濫原に位置する。昭和62年度に阪南町教育委員会(当時)が行った埋蔵文化財分布調査によって発見された。遺跡は東西約300m、南北約500mと阪南市内では比較的大きく、遺跡の北部は調査件数が少ないため詳細は不明であるが、中央部で行った00-2区と06-1区の調査では、古墳時代中期の竪穴住居が各1棟確認された。南部では、平成9年に(財)大阪府文化財センター(当時)が行った国道26号線(第2阪和国道)延長工事に先立つ事前調査で、縄文時代後期から晩期の西日本最大級の土坑墓群が検出されている。

また、遺跡の南部からは中世瓦が出土しているものの、寺院等に関連する遺構は、現在のところ確認されていない。



第30図　向出遺跡13-1区　トレンチ位置図

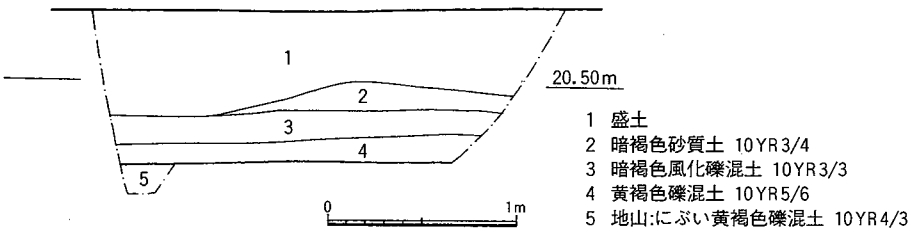
（１）13－1区（第29～32図）

調査区は向出遺跡の中央部に位置する。調査区に1.3m×2.5mのトレンチを設定し調査を実施した。

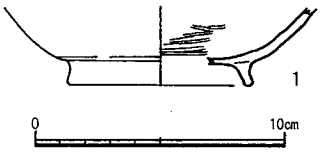
基本層序は第１層盛土、第２層暗褐色砂質土10YR3/4、第３層暗褐色風化礫混土10YR3/3、第４層黄褐色礫混土10YR5/6、第５層にぶい黄褐色礫混土10YR4/3で、第５層は地山である。地山は地表面から約－0.80mで検出した。

遺物は第２層から出土していないが、隣接する既往調査の08-3区では、同じ暗褐色砂質土10YR3/4から土師器、須恵器、瓦器等が出土しており、第２層は中世期の包含層と考えられる。第３層から黒色土器、土師質土器、第４層から須恵器が出土している。この第３・４層は既往調査である88-1、08-3、10-1、12-3区で確認された中世期の溝の埋土に該当することから、トレンチ全体が溝の中に位置すると考えられる。１は黒色土器椀で、第３層から出土した。

その他に遺構は検出されなかった。



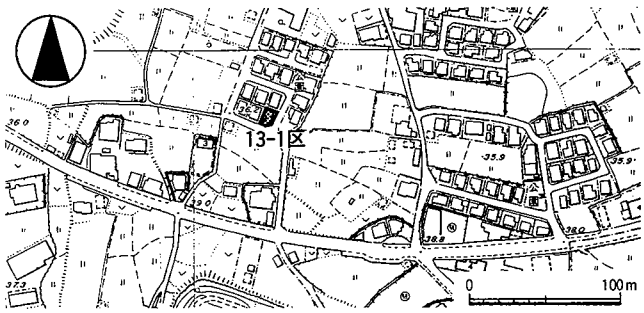
第31図　向出遺跡13-1区　トレンチ東側断面図



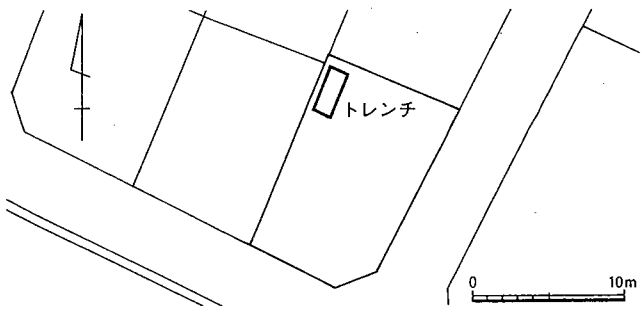
第32図　向出遺跡13-1区
出土遺物

第７節　自然田遺跡

自然田遺跡は男里川の支流である菟砥川の右岸に位置し、昭和61年度の民間開発工事に伴う事前調査で発見された。その調査で遺構は検出しなかったが、サヌカイト製のナイフ形石器や中世期の遺物が出土した。その後の遺跡北部の調査でも、中世期から近世期の遺物が若干出土しているが、遺構の検出には至っていない。遺跡南部の調査では、弥生時代後期や古墳時代中期の竪穴住居を検出している。当遺跡の南側丘陵には、古墳時代終末期に造営された玉田山古墳群が所在し、被葬者の居住地が周辺に位置すると想定するが、同時期の集落跡は検出されていない。



第33図　自然田遺跡　調査区位置図



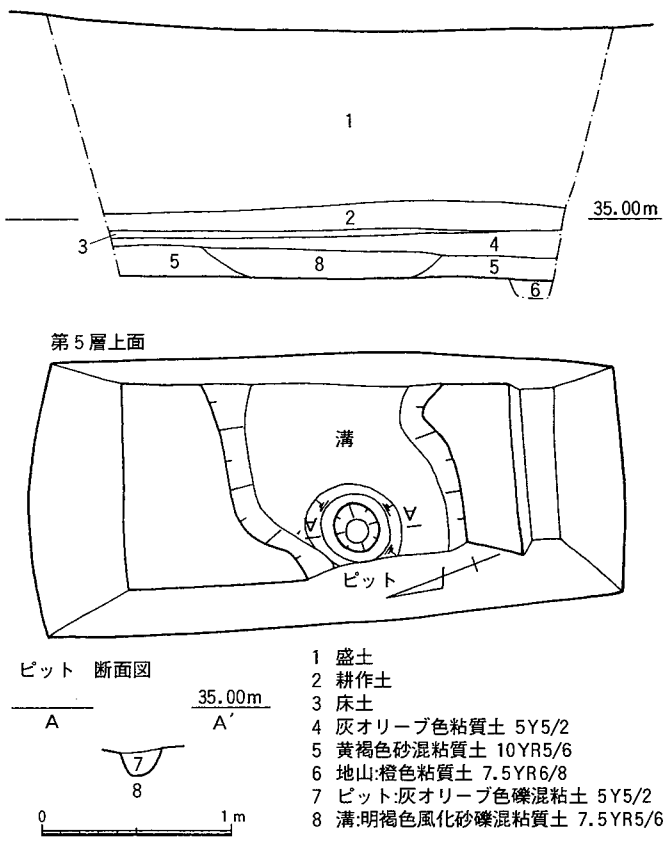
第34図　自然田遺跡13-1区　トレンチ位置図

（１）13―1区（第33～35図）

調査区は自然田遺跡の南部に位置する。調査区に1.4m×3.0mのトレンチを設定し、調査を実施した。

基本層序は第１層盛土、第２層耕作土、第３層床土、第４層灰オリーブ色粘質土5Y5/2、第５層黄褐色砂混粘質土10YR5/6、第６層橙色粘質土7.5YR6/8で、第６層は地山である。地山は地表面から約－1.40mで検出した。いずれの層からも遺物は出土しなかった。

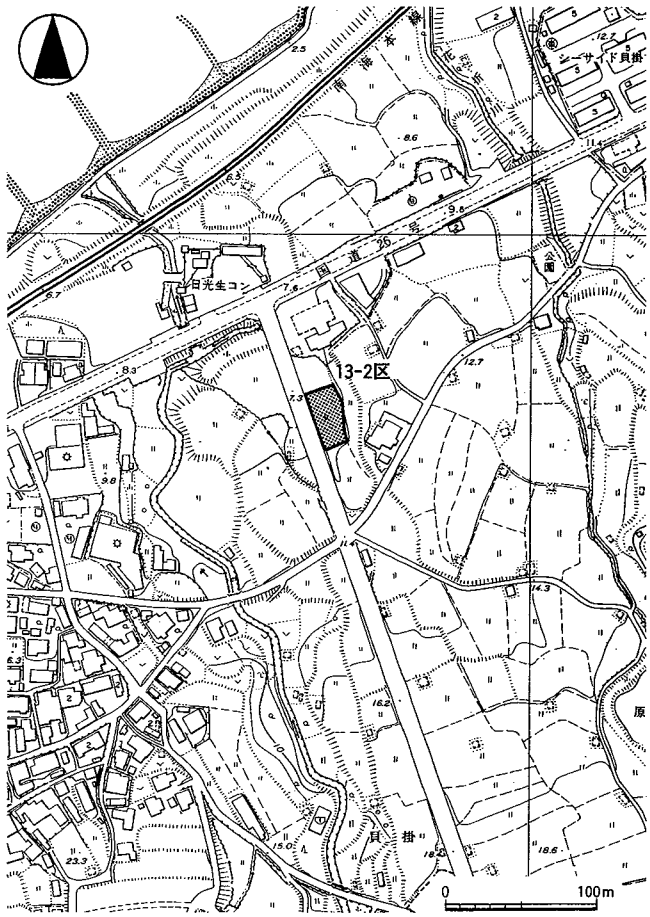
遺構は第５層上面でピットを１基、溝を１条検出した。ピットは直径0.25m、深さ0.14mで、溝を切っている。埋土は灰オリーブ色礫混粘土5Y5/2である。溝は長さ1.10m以上、幅1.29m、深さ0.15mを測り、埋土は明褐色風化砂礫混粘質土7.5YR5/6である。いずれの遺構からも遺物は出土しなかった。



第35図　自然田遺跡13-1区　トレンチ平面・断面図

第８節　貝掛遺跡

貝掛遺跡は本市の中央部を流れる釈迦坊川と花折川に挟まれた、南北に長い谷に位置する。昭和61年度に阪南町教育委員会(当時)が行った86-1区の調査では、中世期の溝が数条検出された他、縄文時代のサヌカイト製石槍や石鏃、土師器、須恵器、瓦器、近世陶磁器等、様々な時代の遺物が確認されている。同じく昭和61年に(財)大阪府埋蔵文化財協会(当時)が実施した調査では、近世期の建物跡が確認され、文献や絵図等に記載されている同時代の集落「舞村」の存在が裏付けられた。また、平成元年度に阪南町教育委員会(当時)が行った89-3区の調査では、７世紀前半の建物跡を検出した他、土坑から金銅製耳環、奈良三彩の八曲長杯等、特異な遺物が出土している。



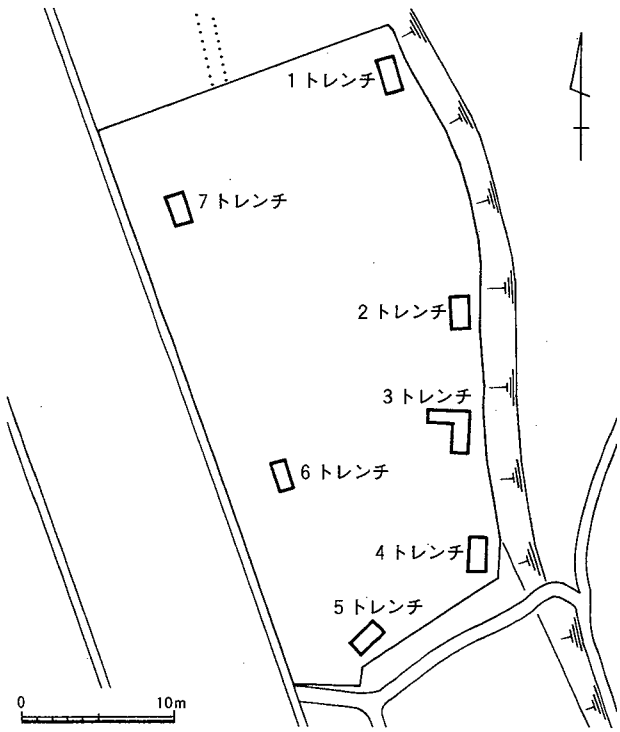
第36図　貝掛遺跡　調査区位置図

（１）13―2区（第36～39図）

調査区は貝掛遺跡の北部に位置する。調査区に７ヶ所のトレンチを設定し、合わせて19.71m²の調査を実施した。

基本層序として共通しているのは第１層耕作土と第２層床土のみで、第３層以下の堆積は調査区の東部に設定した１～３トレンチでは一部同じである。

遺物はマンガン混じりの灰オリーブ色砂質土5Y5/2から須恵器、瓦器、土師質土器、マンガン混じりの暗灰黄色砂混粘質土2.5Y5/2から土師器、須恵器、土師質土器、製塩土器、

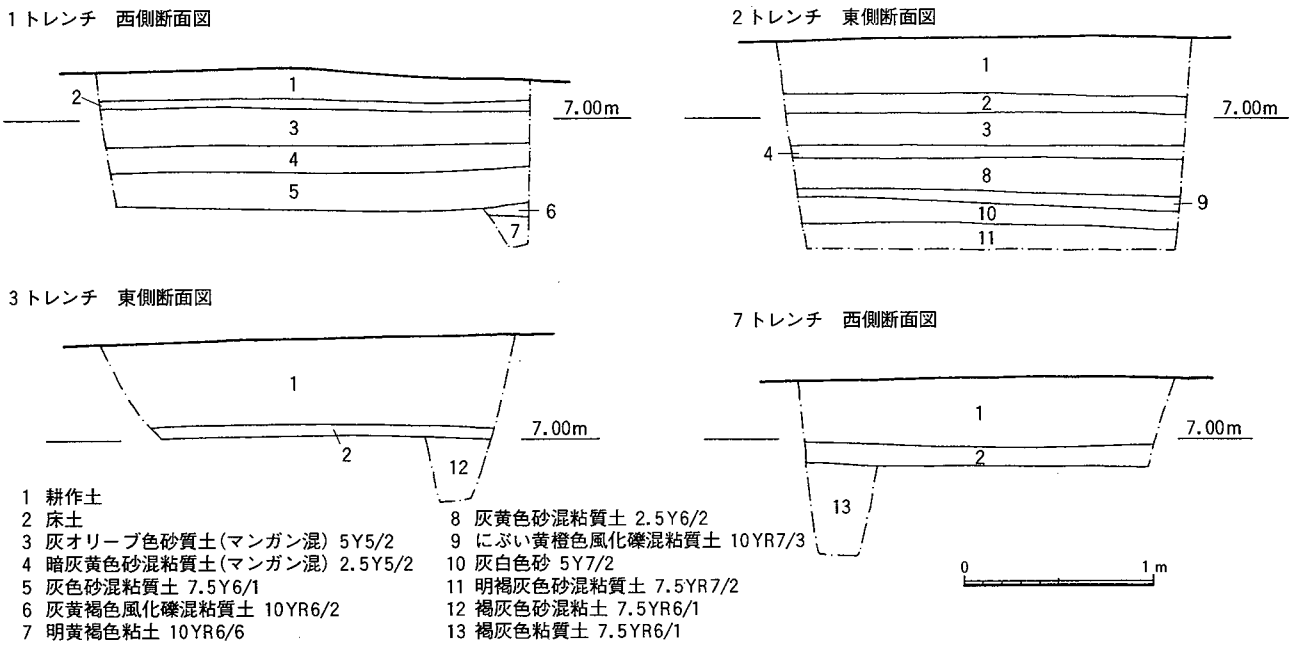


第37図　貝掛遺跡13-2区　トレンチ位置図

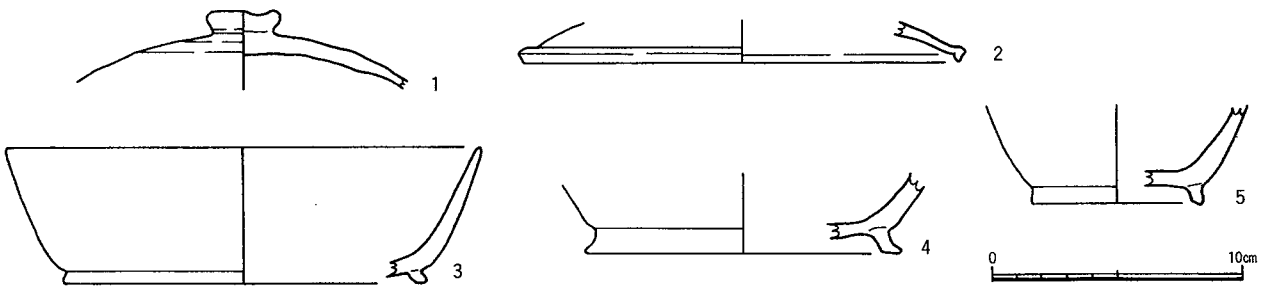
灰黄色砂混粘質土2.5Y6/2から土師器、土師質土器、灰白色砂5Y7/2から土師器、須恵器、土師質土器、灰色砂混粘質土7.5Y6/1から片岩、土師器、須恵器、製塩土器が出土した。いずれも中世期の層である。それより下は無遺物層であったが、調査区は谷状地形の急斜面に位置しており、幾度も崩落が繰り返された後に整地したと思われ、本来の地山とは考えられない。

１～５は須恵器で、１・２は杯蓋、３は杯身、４・５は壺で、いずれも１トレンチの灰色砂混粘質土7.5Y6/1から出土した。

今回の試掘調査の結果を受け、本調査を行うこととなった。



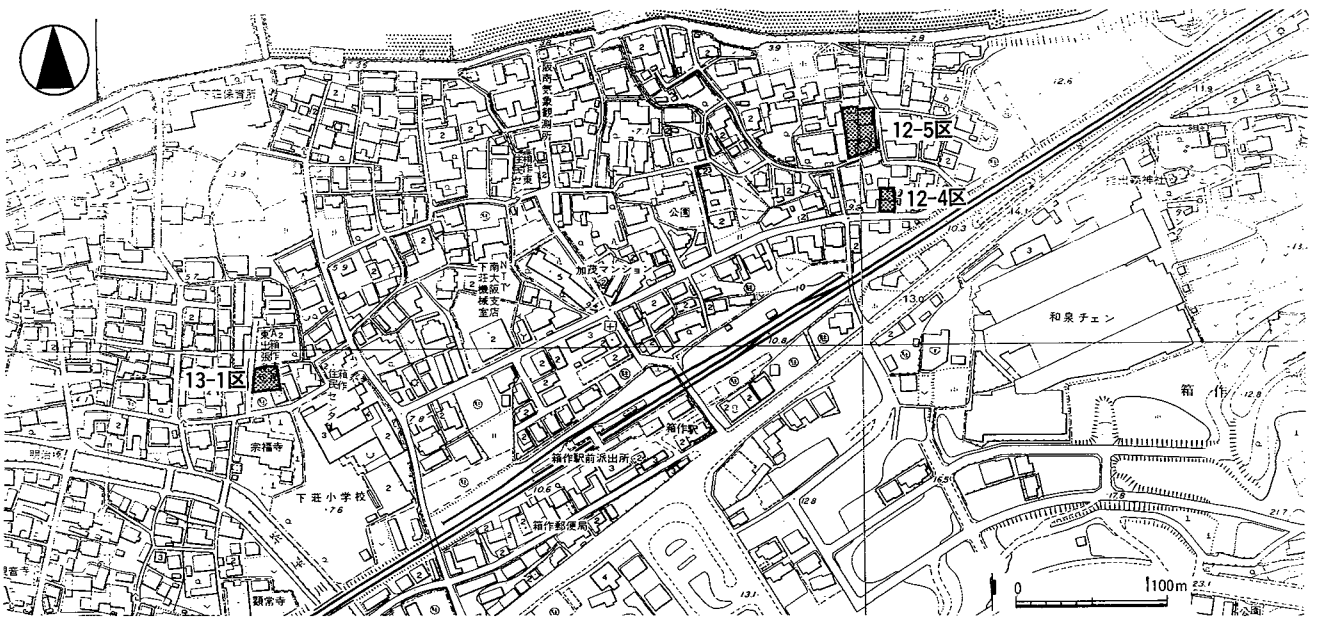
第38図　貝掛遺跡13-2区　トレンチ断面図



第39図　貝掛遺跡13-2区　出土遺物

第９節　箱作今池遺跡

箱作今池遺跡は阪南市の北西部に位置し、茶屋川とその支流である飯ノ峯川が形成する扇状地に位置する。平成５年に(財)大阪府文化財調査研究センター(当時)が区画整理事業に伴って行った遺跡南部での調査により奈良時代に掘立柱建物群が築造され、室町時代には大規模な土地改変で耕地化されたことが分かっている。北部は海岸線に近いことから中世期の蛸壺をはじめとする漁具が出土しており、漁労集落の存在が想定されるものの、旧市街のために調査例は少なく、現在のところ遺跡の詳細は不明である。



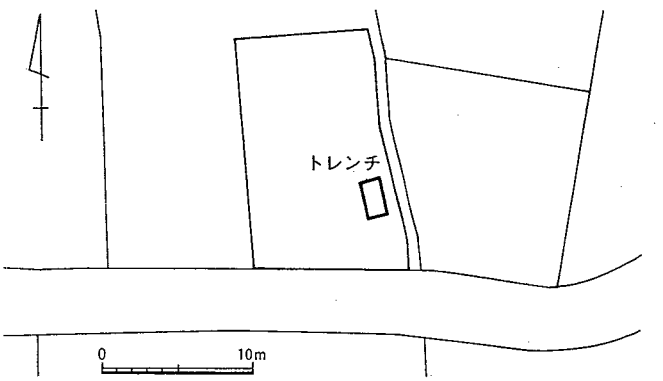
第40図　箱作今池遺跡　調査区位置図

（１）12―4区（第40～42図）

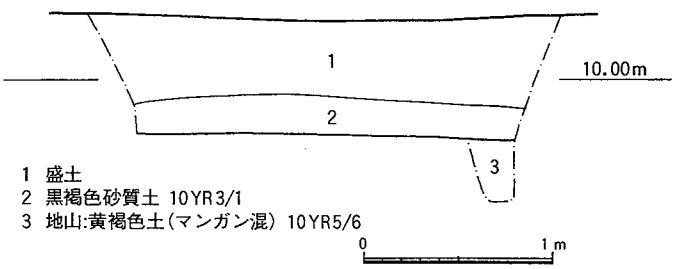
調査区は箱作今池遺跡の北東部に位置する。調査区に1.3m×2.5mのトレンチを設定し、調査を実施した。

基本層序は第１層盛土、第２層黒褐色砂質土10YR3/1、第３層マンガン混じりの黄褐色土10YR5/6で、第３層は地山である。地山は地表面から約－0.65mで検出した。

遺物は出土せず、遺構も検出されなかった。



第41図　箱作今池遺跡12-4区　トレンチ位置図



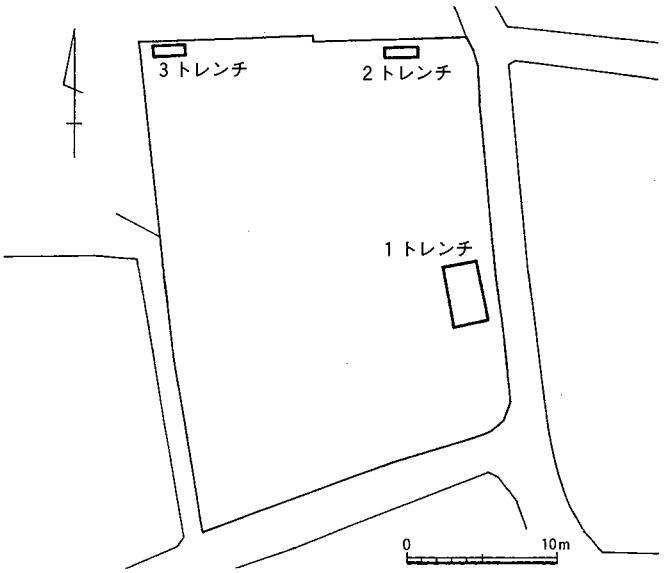
第42図　箱作今池遺跡12-4区　トレンチ東側断面図

（2）12—5区（第40・43図）

調査区は箱作今池遺跡の北東部に位置する。調査区に3ヶ所のトレンチを設定し、合わせて12.80m²の調査を実施した。

基本層序は第１層盛土、第２層マンガン混じりの黄褐色土10YR5/6で、第２層は地山である。

いずれのトレンチからも遺物は出土せず、遺構も検出されなかった。



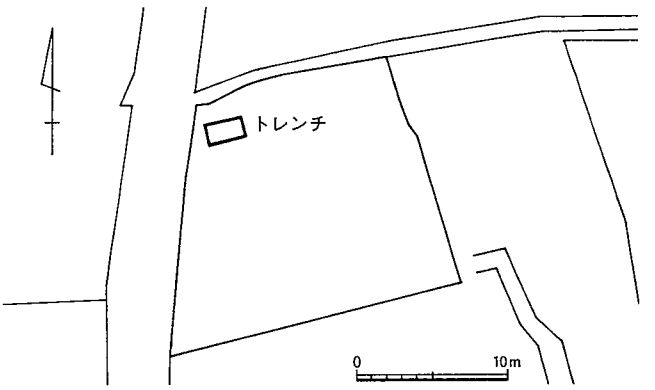
第43図　箱作今池遺跡12-5区　トレンチ位置図

（3）13—1区（第40・44～46図）

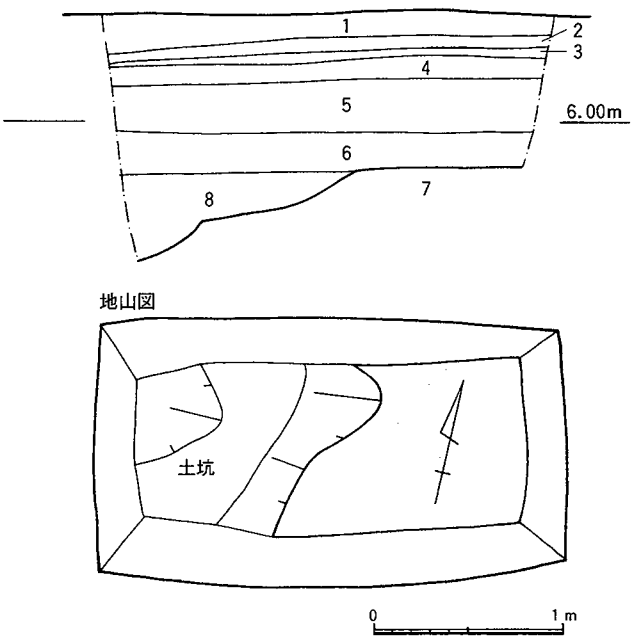
調査区は箱作今池遺跡の西部に位置する。1.3m×2.4mのトレンチを設定し、調査を実施した。

基本層序は第１層盛土、第２層耕作土、第３層床土、第４層マンガン混じりの黄褐色砂質土2.5Y5/4、第５層にぶい黄褐色砂質土10YR5/3、第６層褐色粘質土7.5YR4/3、第７層暗灰黄色礫混土2.5Y5/2で、第７層は地山である。地山は地表面から約－0.80mで検出した。

遺物は第４層からサヌカイト片、須恵器、瓦器、土師質土器、土師質管状土錘、第５層からサヌカイト片、須恵器、黒色土器、瓦器、土師質土器、製塩土器、第６層から土師器、須恵器、黒色土器、土師質土器、製塩土器が出土した。第４・５層は中世期、第６層は平安時代と思われる。１は土師質管状土錘、２は須恵器杯身、３は土師質椀、４は奈良時代の製塩土器で、１は第４層、２は第５層、３・４は第６層から出土した。



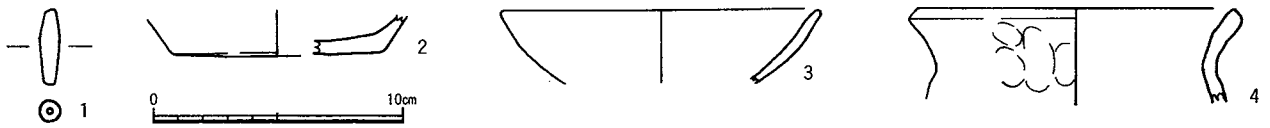
第44図　箱作今池遺跡13-1区　トレンチ位置図



1 盛土
2 耕作土
3 床土
4 黄褐色砂質土(マンガン混) 2.5Y4
5 にぶい黄褐色砂質土 10YR5/3
6 褐色粘質土 7.5YR4/3
7 地山:暗灰黄色礫混土 2.5Y5/2
8 土坑:暗褐色粘質土 10YR3/4

第45図　箱作今池遺跡13-1区　トレンチ平面・断面図

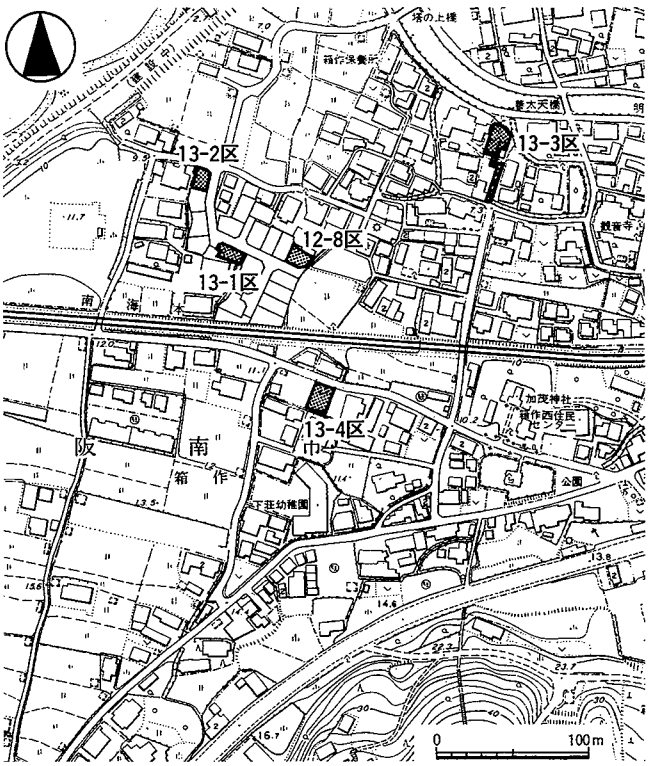
遺構は地山面で土坑を1基検出した。東西1.30m以上、南北0.90m以上、深さ0.46mを測るが、大半はトレンチ外のため、詳細な大きさは確認できない。埋土は暗褐色粘質土10YR3/4で、遺物は出土しなかった。平安時代もしくはそれ以前の遺構と思われる。



第46図　箱作今池遺跡13-1区　出土遺物

第10節　田山東遺跡

田山東遺跡は昭和63年度に阪南町教育委員会(当時)が行った埋蔵文化財分布調査によって発見された。その後の既往調査では、土錘や蛸壺等の漁労関連遺物や中国製の青磁や白磁等の輸入陶磁器が出土しているものの、遺跡の詳細な性格は不明である。しかし、当遺跡の西側に隣接している田山遺跡でも同様の遺物が数多く出土しており、当時中国との貿易に何らかの関係があったものと推測され、単なる漁労関連集落にはとどまらないであろうと思われる。また、平成６年度、平成25年度の調査で中世期の土師質真蛸壺焼成遺構が検出されていることが特筆される。特に平成25年度の調査では８基の窯が検出された。



第47図　田山東遺跡　調査区位置図

（１）12―8区（第47～50図）

調査区は田山東遺跡の西部に位置する。調査区に1.6m×2.7mのトレンチを設定し、調査を実施した。

基本層序は第１層盛土、第２層耕作土、第３層床土、第４層マンガン混じりの灰黄褐色砂質土10YR4/2、第５層明黄褐色粘質土10YR6/6で、第５層は地山である。地山は地表面から約－0.65mで検出した。

遺物は第４層から片岩、瓦器、土師質土器、瓦質土器、陶器、土師質真蛸壺が出土した。１・２は瓦器椀、３・４は土師質小皿、５は土師質真蛸壺である。

既往調査の12-2区では、第4層は南から北へ広がる近世期の落ち込みのため、トレンチ全体が落ち込みの中であると思われる。

遺構は地山面でピット３基と落ち込みを検出した。

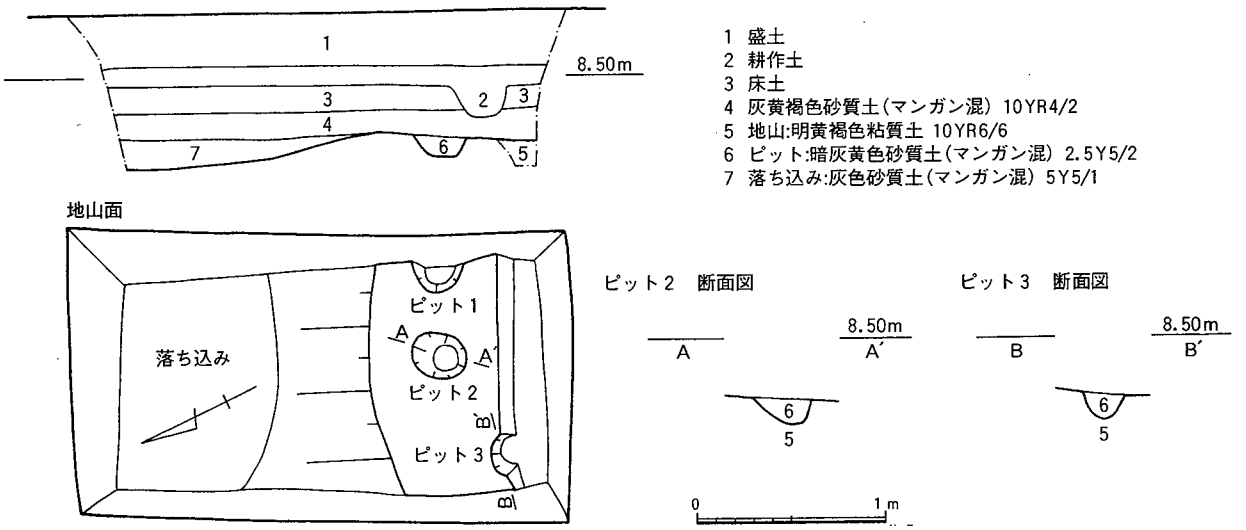
ピット１は直径0.28m、深さ0.11mを測るが、東部はトレンチ外である。遺物は出土しなかった。

ピット２は直径0.30m、深さ0.15mを測る。遺物は瓦器が出土した。

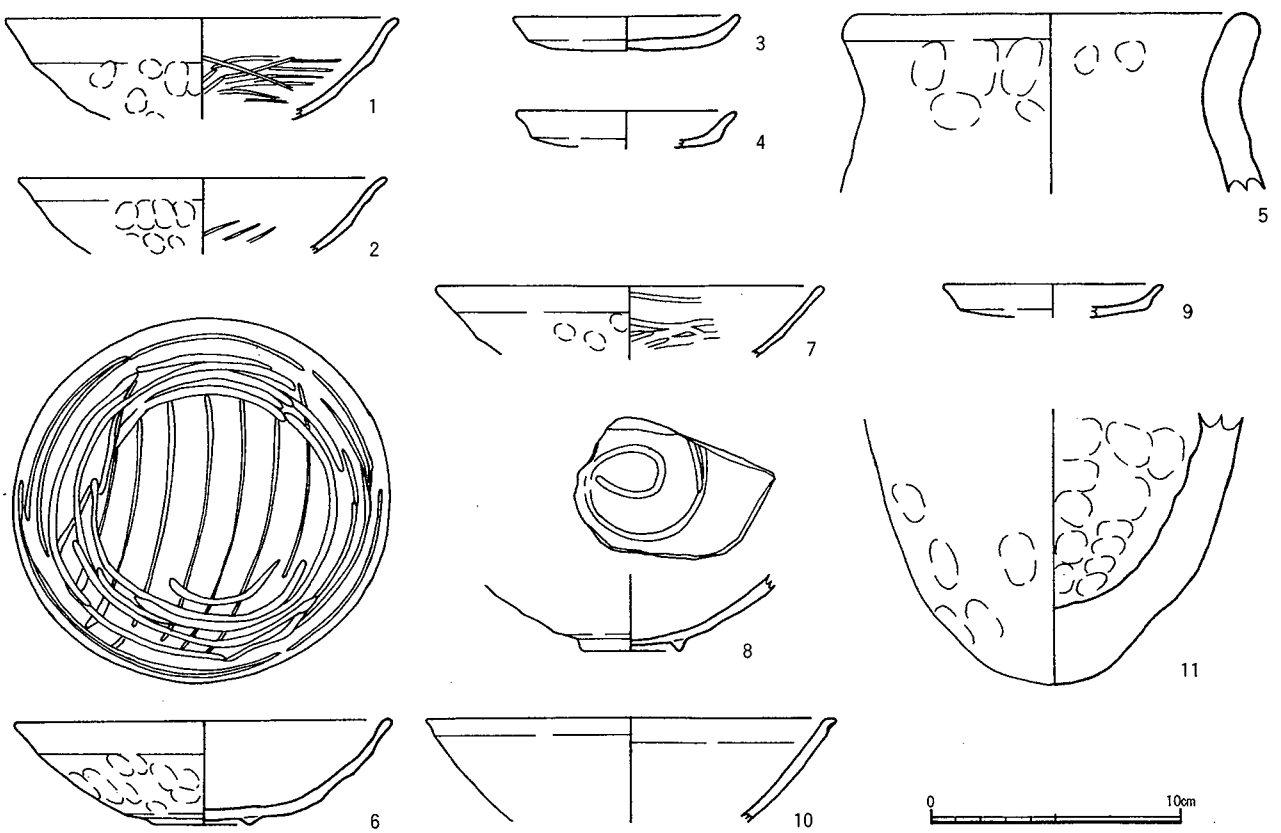
ピット３は直径0.22m、深さ0.15mを測る。遺物は出土しなかった。

ピットの埋土はいずれもマンガン混じりの暗灰黄色砂質土2.5Y5/2で、中世期の遺構と思われる。

第48図　田山東遺跡12-8区・13-1区・13-2区　トレンチ位置図



第49図　田山東遺跡12-8区　トレンチ平面・断面図



第50図　田山東遺跡12-8区　出土遺物

落ち込みはトレンチ中央部から北方向へ下がり、埋土はマンガン混じりの灰色砂質土5Y5/1で、遺物は瓦器、白磁、土師質土器、土師質真蛸壺、中世瓦が出土した。6～8は瓦器椀、9は土師質小皿、10は白磁の椀、11は土師質真蛸壺である。中世期の落ち込みである。

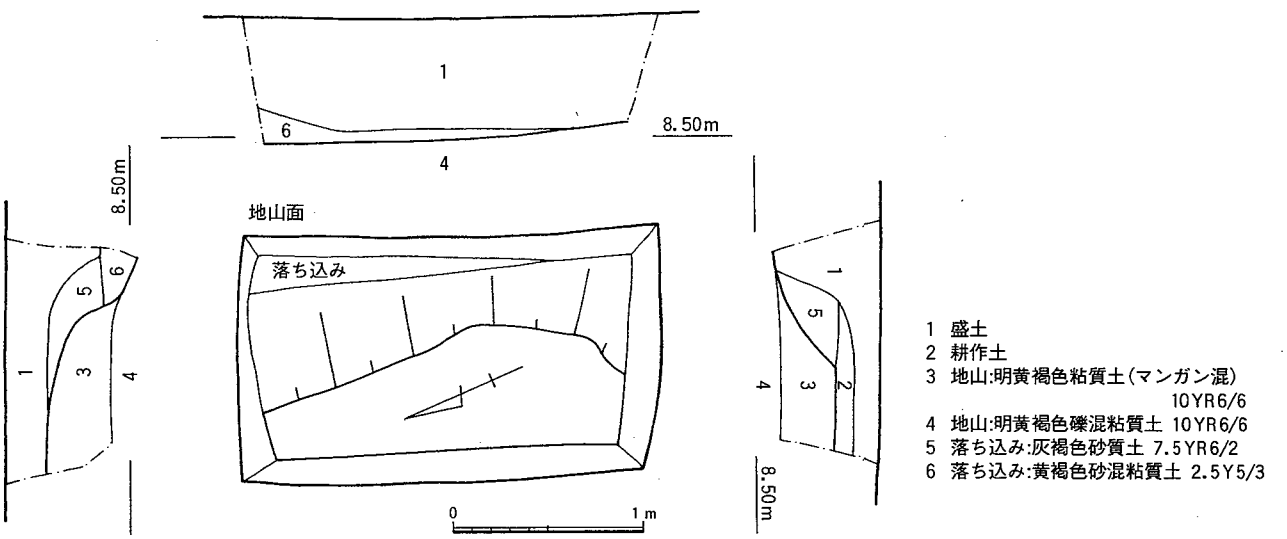
（2）13−1区（第47・48・51・52図）

調査区は田山東遺跡の西部に位置する。調査区に1.3m×2.2mのトレンチを設定し、調査を実施した。

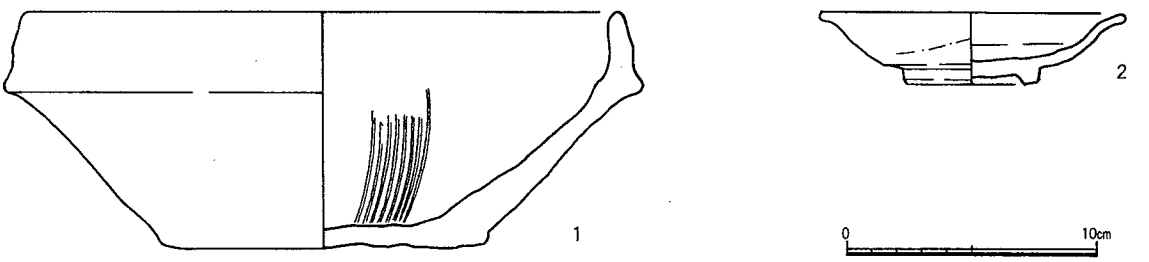
基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層マンガン混じりの明黄褐色粘質土10YR6/6、第4層明黄褐色礫混粘質土10YR6/6で、第3層以下は地山である。地山は地表面から約−0.25mで検出した。

遺構は地山面で東方向へ下がる落ち込みを検出した。埋土は上層が灰褐色砂質土7.5YR6/2で、遺物は土師質土器、瓦質土器、陶器、土師質真蛸壺が出土した。1は備前焼の擂鉢で15世紀のもの、2は見込み蛇ノ目釉剥ぎの陶器皿である。下層の埋土は黄褐色砂混粘質土2.5Y5/3で、遺物は瓦器、土師質真蛸壺が出土した。

この落ち込みの上層は、既往調査である12-2区の調査で確認した近世期の落ち込みと同一で、2の陶器皿もその調査で出土した陶器皿と同一個体であった。下層の時代は中世期と思われる。



第51図　田山東遺跡13-1区　トレンチ平面・断面図



第52図　田山東遺跡13-1区　出土遺物

（3）13―2区（第47・48・53図）

調査区は田山東遺跡の西部に位置する。調査区に1.7m×2.5mのトレンチを設定し、調査を実施した。

基本層序は第１層盛土、第２層床土、第３層褐色粘質土10YR4/6、第４層マンガン混じりの明黄褐色粘質土10YR6/6で、第４層は地山である。地山は地表面から約－0.35mで検出した。

遺物は第３層から瓦器、土師質土器、瓦質土器、スサ入り焼土塊が出土した。

第３層は既往調査の12-2区で確認された中世期の落ち込みと同一であり、トレンチ全体が落ち込みの中と思われる。

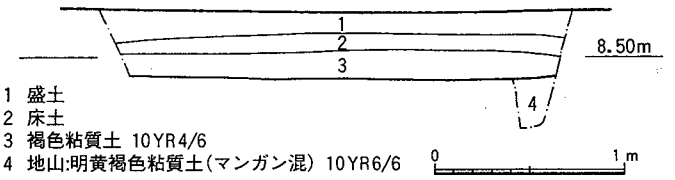
その他の遺構は検出されなかった。

（4）13―3区（第47・54～56図）

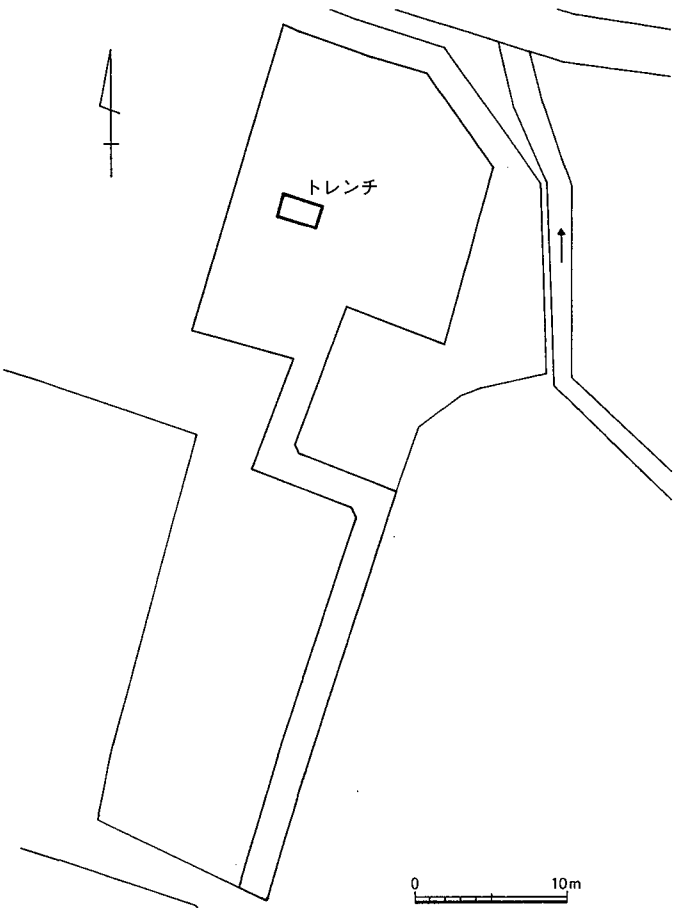
調査区は田山東遺跡の東部に位置する。調査区に1.5m×2.7mのトレンチを設定し、調査を実施した。

基本層序は第１層耕作土、第２層床土、第３層灰黄褐色砂質土10YR5/2、第４層黄褐色礫混土2.5Y5/3、第５層灰オリーブ色礫混粘質土5Y4/2、第６層オリーブ褐色礫混粘質土2.5Y4/4で、第６層は地山である。地山は地表面から約－1.00mで検出した。

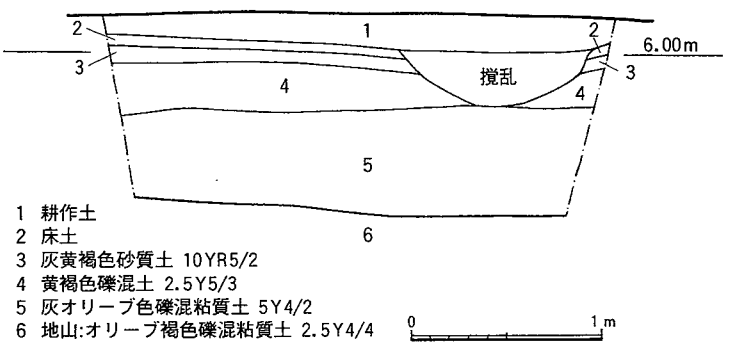
遺物は第４層から土師質土器、第５層から土師質真蛸壺、土師質管状土錘、中世瓦が出土した。第４・５層の時代はいずれも中世期と思われる。１は土師質真蛸壺、２・３は土師質管状土錘で、いずれも第５層から出土した。



第53図　田山東遺跡13-2区　トレンチ西側断面図

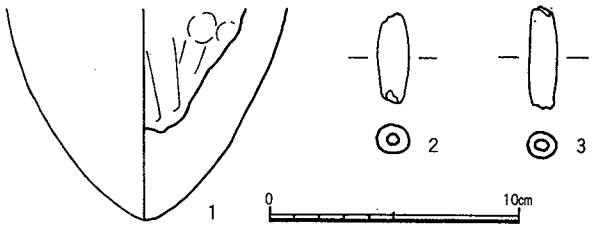


第54図　田山東遺跡13-3区　トレンチ位置図



第55図　田山東遺跡13-3区　トレンチ北側断面図

遺構は検出されなかった。



第56図　田山東遺跡13-3区　出土遺物

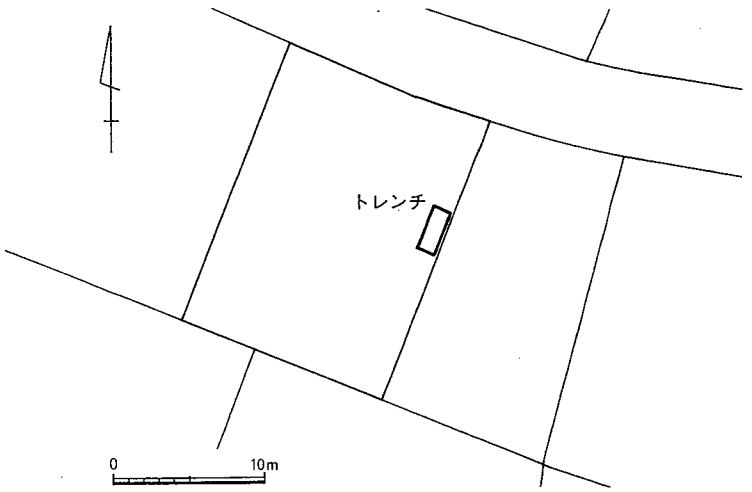
（5）13ー4区（第47・57～59図）

調査区は田山東遺跡の南部に位置する。調査区に1.2m×3.0mのトレンチを設定し、調査を実施した。

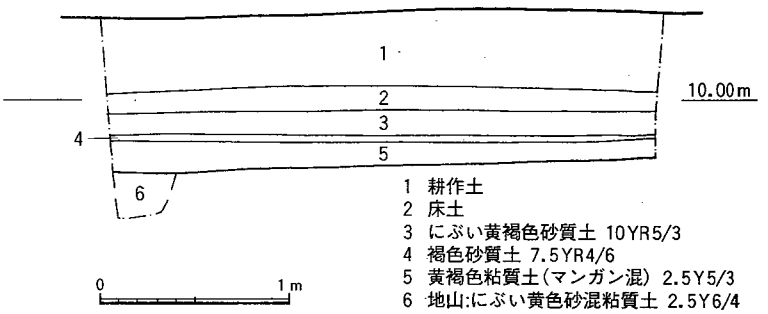
基本層序は第１層耕作土、第２層床土、第３層にぶい黄褐色砂質土10YR5/3、第４層褐色砂質土7.5YR4/6、第５層マンガン混じりの黄褐色粘質土2.5Y5/3、第６層にぶい黄色砂混粘質土2.5Y6/4で、第６層は地山である。地山は地表面から約－0.80mで検出した。

遺物は第３層から土師質土器、第４層から土師器、須恵器、瓦器、土師質土器、土師質真蛸壺、第５層から土師器が出土した。第３・４層の時代は中世期、第５層は奈良時代と思われる。１は須恵器杯身、２は瓦器椀で、いずれも第３層から出土した。

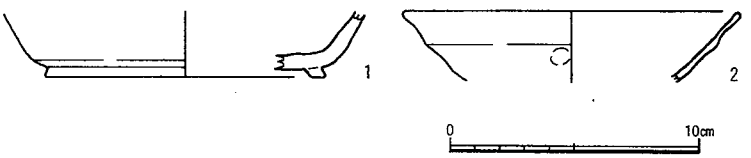
遺構は検出されなかった。



第57図　田山東遺跡13-4区　トレンチ位置図



第58図　田山東遺跡13-4区　トレンチ東側断面図

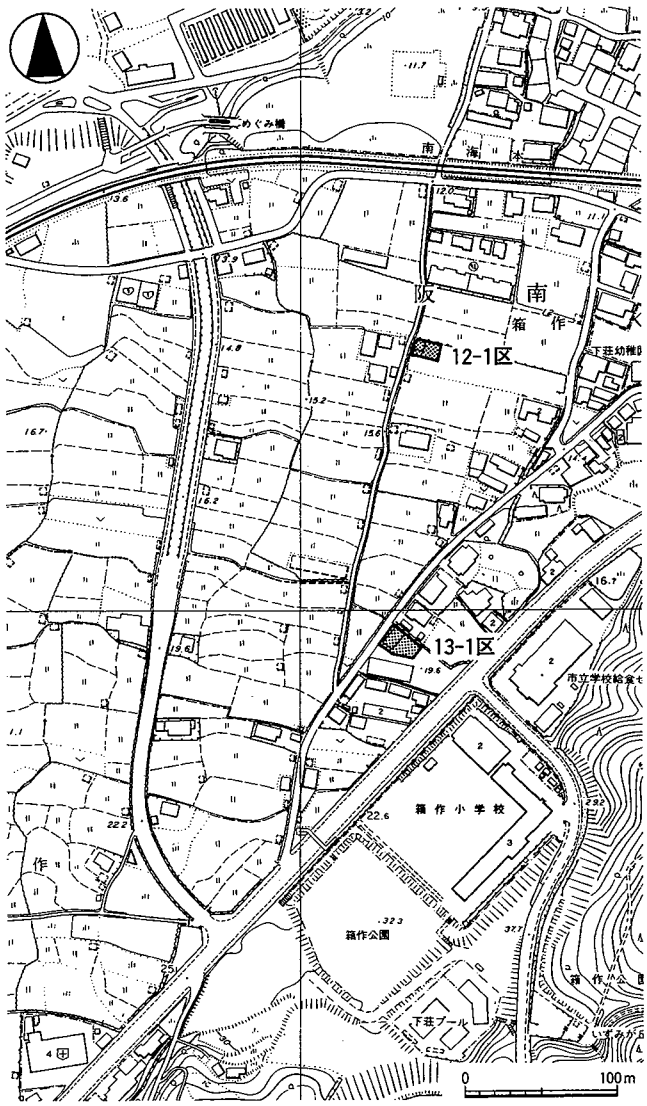


第59図　田山東遺跡13-4区　出土遺物

第11節　田山遺跡

田山遺跡は北を大阪湾に面し、南には和泉山脈が迫る東西に細長い低台地に広がる弥生時代から中世期にかけての複合集落遺跡である。昭和52年３月に大阪府教育委員会より発行された大阪府文化財分布図に記載されている。

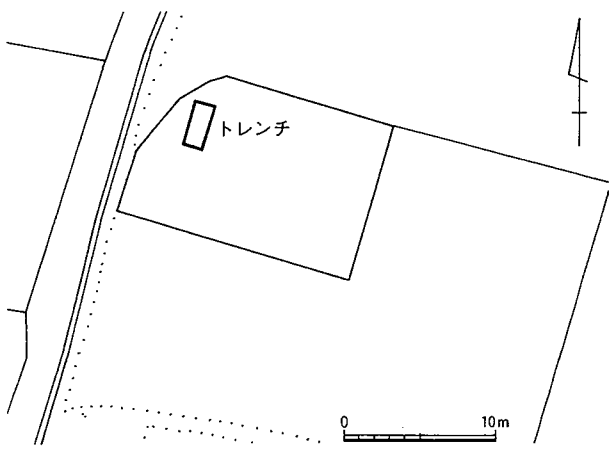
昭和55年度に行われた(財)大阪文化財センター(当時)の調査では、縄文時代から近世期までの遺物が出土しているが、なかでも奈良時代から中世期の遺構、遺物が田山遺跡の特徴を顕著にあらわしている。その調査により奈良時代の集落の存在が確認され、同時代の一般的な遺物の他に、煎熬工程と固形塩製造工程に使われた製塩土器や円面硯、墨書土器、摶状遺物等の出土により、塩の製造から配送を行った基地としての性格を持つ集落が推定される。海岸線近くでは中世期の住居跡とともに、蛸壺や土錘を焼成した窯跡と思われる土坑が検出されている。また、輸入陶磁器の出土が多いことも特筆される。



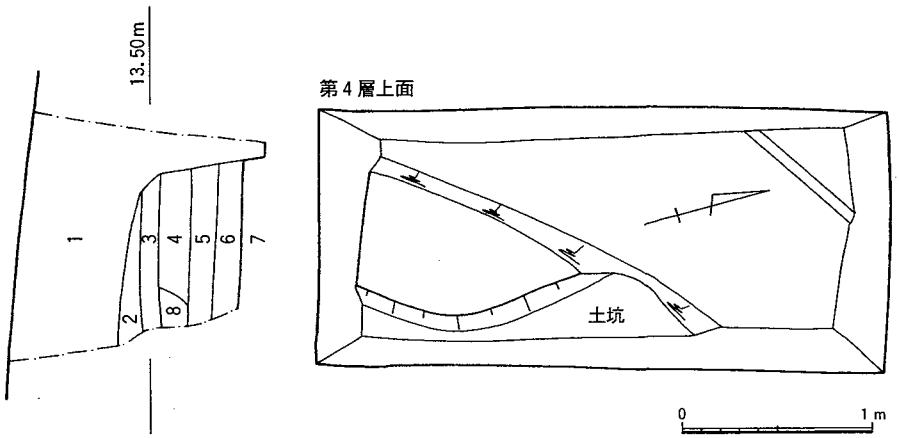
第60図　田山遺跡　調査区位置図

（１）12―1区（第60～63図）

調査区は田山遺跡の東部に位置する。調査区に1.4m×3.0mのトレンチを設定し、調査を実施した。基本層序は第１層盛土、第２層耕作土、第３層床土、第４層マンガン混じりの黄褐色砂質土2.5Y5/3、第５層マンガン混じりの灰黄色砂質土2.5Y6/2、第６層灰オリーブ色砂礫混粘質土5Y5/2、第７層マンガン混じりの灰黄褐色粘質土10YR6/2で、第７層は地山である。地山は地表面から約－1.20mで



第61図　田山遺跡12-1区　トレンチ位置図

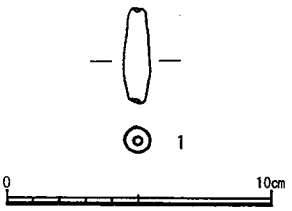


1 盛土
2 耕作土
3 床土
4 黄褐色砂質土(マンガン混) 2.5Y5/3
5 灰黄色砂質土(マンガン混) 2.5Y6/2
6 灰オリーブ色砂礫混粘質土 5Y5/2
7 地山:灰黄褐色粘質土(マンガン混) 10YR6/2
8 土坑:にぶい黄褐色砂質土 10YR5/3

第62図　田山遺跡12-1区　トレンチ平面・断面図

検出した。

遺物は第4層から土師質土器、第5層から須恵器が出土した。第4層は遺物が小片の為、時代の特定は困難であるが中世期、第5層は7～8世紀頃と考えられる。第6層からは遺物が出土しなかったため、時代は不明である。



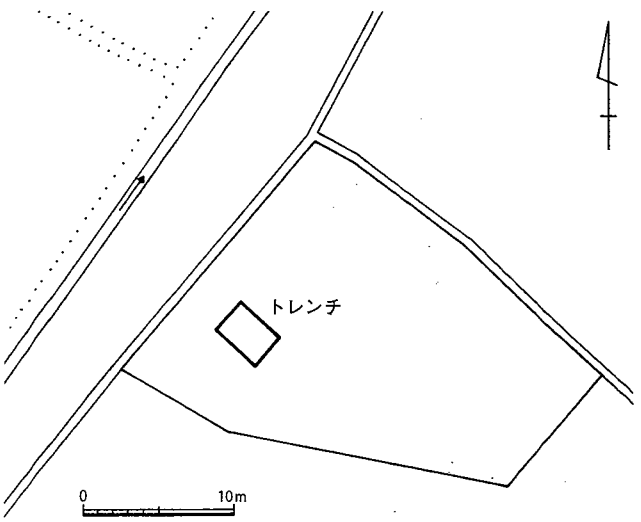
第63図　田山遺跡12-1区
出土遺物

遺構は第4層上面で土坑を1基検出した。東西0.40m以上、南北1.70m以上、深さ0.19mを測るが、大半はトレンチ外で、北部は撹乱に切られている。埋土はにぶい黄褐色砂質土10YR5/3で、瓦器、土師質土器、1の土師質管状土錘が出土した。中世期の土坑である。

（2）13―1区（第60・64～66図）

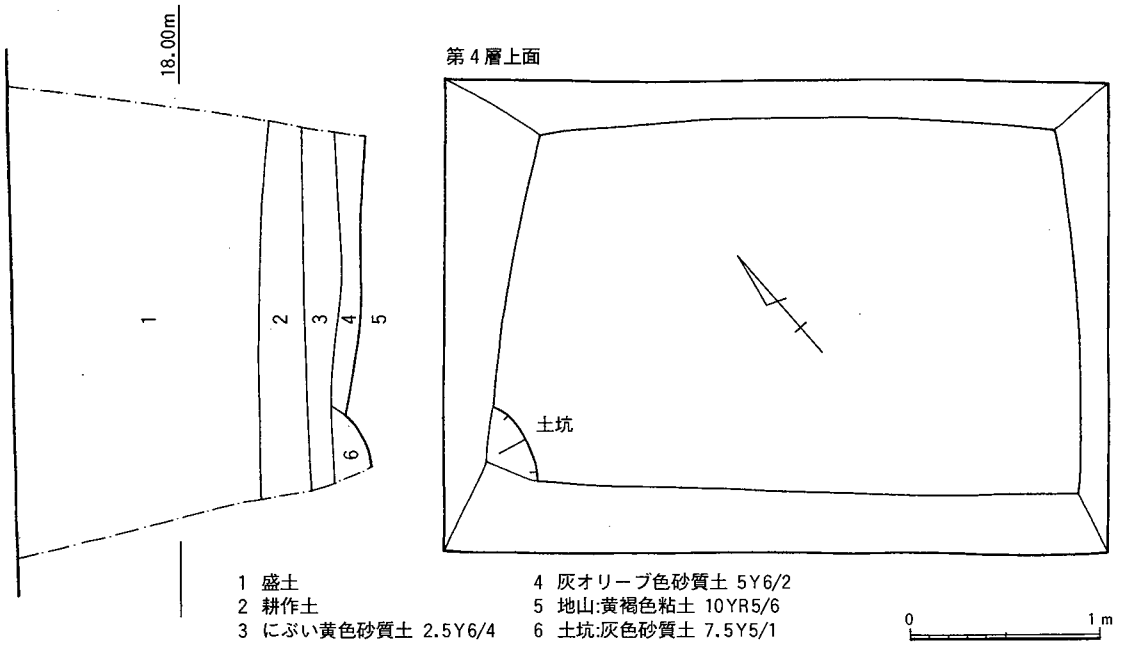
調査区は田山遺跡の南部に位置する。調査区に2.5m×3.5mのトレンチを設定し調査を実施した。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層にぶい黄色砂質土2Y6/4、第4層灰オリーブ色砂質土5Y6/2、第5層黄褐色粘土10YR5/6で、第5層は地山である。地山は地表面から約－1.90mで検出した。



第64図　田山遺跡13-1区　トレンチ位置図

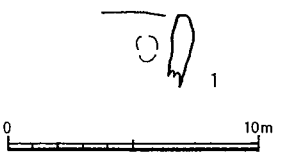
遺物は第3層から瓦器、土師質真蛸壺、第4層から土師質土器、製塩土器が出土した。時代はいずれも中世期と思われる。1は奈



第65図　田山遺跡13-1区　トレンチ平面・断面図

良時代の製塩土器口縁部で第４層から出土した。

遺構は第４層上面で土坑の一部を検出したが、大半はトレンチ外である。埋土は灰色砂質土7.5Y5/1で、遺物は出土しなかったが、中世期の遺構と思われる。



第66図　田山遺跡13-1区
出土遺物

第12節　貝掛範囲外

（1）13−1区（第67・68図）

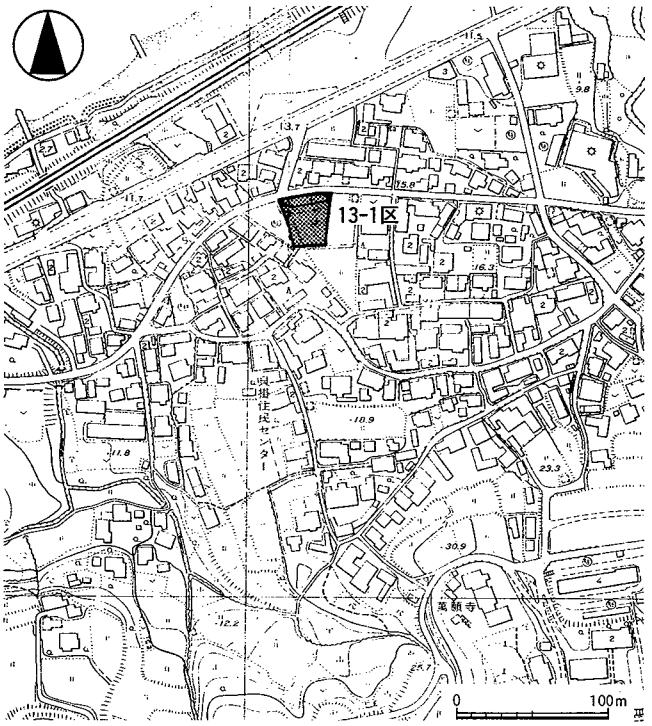
調査区は貝掛遺跡の西約100m、箱作今池遺跡の東約200mに位置し、北へ約100mで大阪湾の海岸線に至る。

当地は埋蔵文化財包蔵地ではないが、周辺での調査例がないため、試掘調査を実施した。

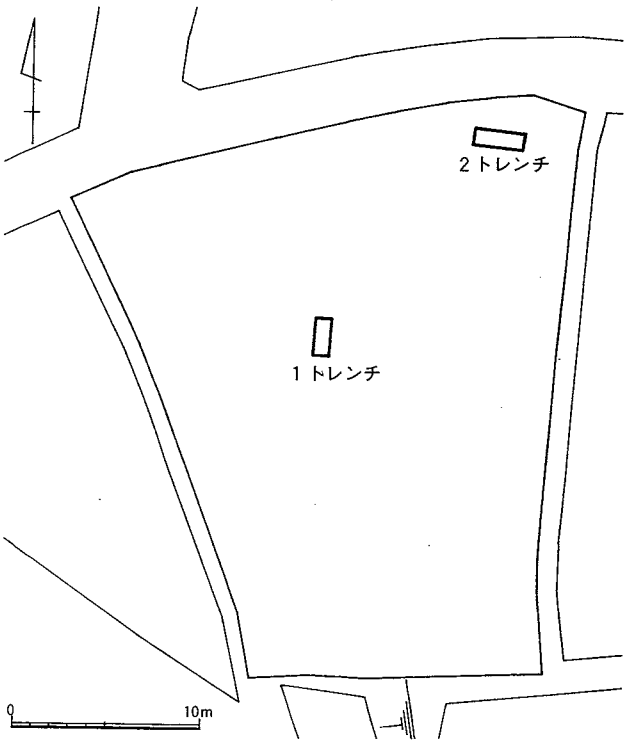
調査区に２ヶ所のトレンチを設定し、合わせて7.44㎡の調査を実施した。

基本層序は第１層耕作土、第２層床土、第３層橙色粘土7.5YR6/6の地山であった。地山面は地表面から約−0.45mで確認した。

いずれのトレンチからも遺物は出土せず、遺構も検出されなかった。



第67図　貝掛範囲外　調査区位置図



第68図　貝掛範囲外13-1区　トレンチ位置図

第2章　まとめ

今年度も例年同様に小規模な調査が多数を占めたが、それらの内4件は本調査へと繋がり、阪南市の歴史に新たな手がかりを得ることができた。

尾崎清水遺跡は阪南市域でも縄文土器が出土する数少ない遺跡である。今回、実施した12-1区からも中世期の包含層からではあるが、縄文土器深鉢が出土している。

鳥取南遺跡13-2区の西に隣接する調査区では、奈良時代の土師器蔵骨器がほぼ完形で出土している。今回の調査でも、近世期の鋤溝や中世期の土坑2基の他に、奈良時代の土坑1基も検出され、遺跡の詳細な性格の解明が予想される。

貝掛遺跡では、13-1区の北側の既往調査で、金銅製耳環、奈良三彩の八曲長杯、古墳時代から奈良時代の製塩土器等、特異な遺物が出土しており、今回の調査でも多数の奈良時代の遺物が出土したものの、遺構と思われるものは検出されなかった。

田山東遺跡では昨年度、真蛸壺焼成土坑が数基検出され、その生産地であろうことが推定され、その調査区に隣接する12-8・13-1・13-2区の調査区においても真蛸壺は出土したものの焼成土坑は検出されなかった。

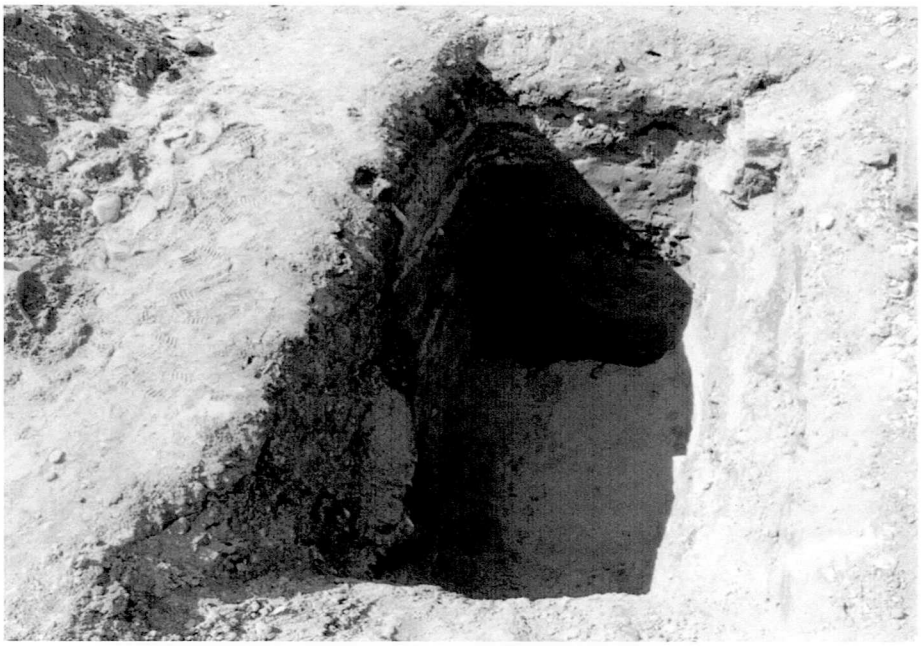
発掘調査は、人類祖先の営みを知る手段のひとつであり、文字を持たなかった時代に於いては、唯一の手立てである。今後も調査の規模にかかわらず、この地に残る未だ知られていない事実を地道に掘り起こしていきたい。

報告書抄録

ふりがな	はんなんしまいぞうぶんかざいはっくつちょうさがいよう３１
書　　名	阪南市埋蔵文化財発掘調査概要３１
副書名	
巻　　次	
シリーズ名	阪南市埋蔵文化財報告
シリーズ番号	５２
編著者名	田中早苗・上野　仁・大川　健
編集機関	阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進室
所在地	〒599-0292　大阪府阪南市尾崎町３５－１　TEL 072－471－5678
発行年月日	2014年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村番号	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
尾崎海岸	尾崎町	27232	65	34 21 41	135 14 31	20130312	4.50	記録保存調査
尾崎清水	尾崎町	27232	68	34 21 37	135 14 45	20130304	10.14	記録保存調査
尾崎清水	下出	27232	68	34 21 37	135 14 50	20130528・0529	7.20	記録保存調査
鳥取・鳥取南	鳥取	27232	53･55	34 20 57	135 14 18	20131111・1112	2.52	記録保存調査
鳥取南	鳥取	27232	55	34 20 51	135 14 15	20131029～1101	6.53	記録保存調査
鳥取南	鳥取	27232	55	34 20 52	135 14 09	20131105～1115	28.13	記録保存調査
西鳥取	鳥取	27232	56	34 20 47	135 14 01	20130801・0802	6.00	記録保存調査
西鳥取	鳥取	27232	56	34 20 44	135 13 57	20130822～0827	40.80	記録保存調査
向出	自然田	27232	43	34 20 50	135 15 32	20130423・0424	3.25	記録保存調査
自然田	自然田	27232	35	34 20 18	135 15 29	20130515・0516	4.20	記録保存調査
貝掛	貝掛	27232	19	34 20 31	135 13 36	20131118～1121	19.71	記録保存調査
箱作今池	箱作	27232	24	34 20 22	135 13 03	20130308	3.25	記録保存調査
箱作今池	箱作	27232	24	34 20 23	135 13 02	20130318	12.80	記録保存調査
箱作今池	箱作	27232	24	34 20 18	135 12 47	20131125・1126	3.12	記録保存調査
田山東	箱作	27232	58	34 20 13	135 12 32	20130306・0307	4.32	記録保存調査
田山東	箱作	27232	58	34 20 15	135 12 29	20130520・0521	2.86	記録保存調査
田山東	箱作	27232	58	34 20 13	135 12 30	20130603・0604	4.25	記録保存調査
田山東	箱作	27232	58	34 20 15	135 12 37	20130812・0813	4.05	記録保存調査
田山東	箱作	27232	58	34 20 10	135 12 32	20130912・0913	3.60	記録保存調査
田山	箱作	27232	22	34 20 07	135 12 26	20130314・0315	4.20	記録保存調査
田山	箱作	27232	22	34 20 02	135 12 25	20130612・0613	8.75	記録保存調査
貝掛範囲外	貝掛	27232	－	34 20 27	135 13 23	20130610・0611	7.44	試掘・確認調査

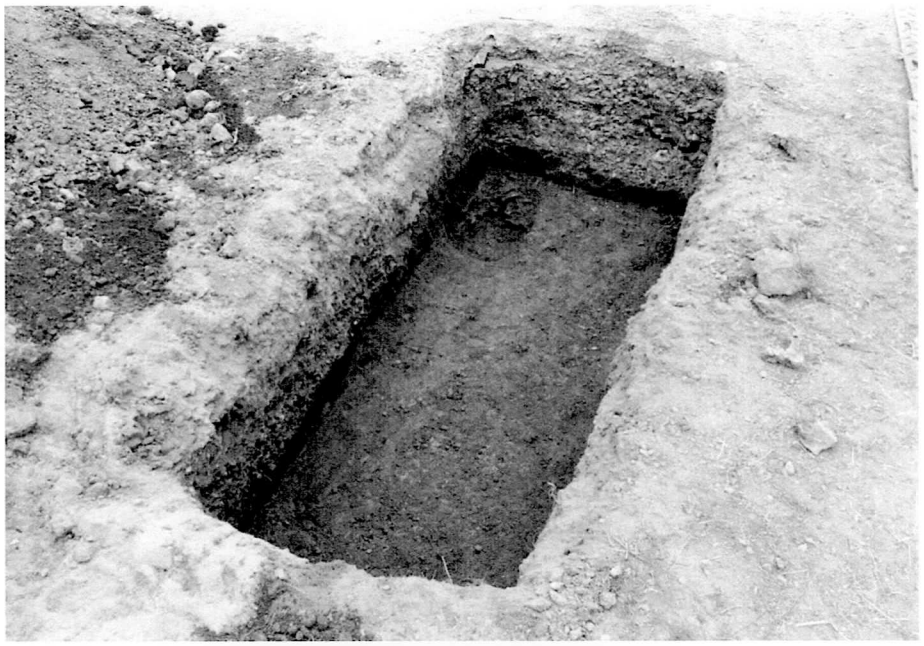
所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主　な　遺　物	特記事項
尾崎海岸	生産遺跡	近世期		土師質真蛸壺、陶器、近世瓦、砥石	
尾崎清水	散布地	中世期	ピット	サヌカイト片、縄文土器、須恵器、黒色土器、瓦器、土師質土器、製塩土器、土師質真蛸壺、土師質飯蛸壺、中世瓦	
尾崎清水	散布地				
鳥取・鳥取南	散布地			土師質土器	
鳥取南	散布地	中世期	溝	土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、土師質土器、製塩土器、土師質真蛸壺	
鳥取南	散布地	奈良時代～近世期	溝、土坑	弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、土師質土器、製塩土器、土師質真蛸壺、スサ入り焼土塊	
西鳥取	散布地	中世期～近世期	溝	土師質土器、土師質真蛸壺、土師質管状土錘、磁器	
西鳥取	散布地	近世期		陶器、磁器、湊焼	
向出	散布地	中世期		須恵器、黒色土器、土師質土器	
自然田	散布地		溝、ピット		
貝掛	集落跡	中世期		土師器、須恵器、瓦器、土師質土器、製塩土器、片岩	
箱作今池	散布地、生産集落				
箱作今池	散布地、生産集落				
箱作今池	散布地、生産集落	平安時代～中世期	土坑	サヌカイト片、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、土師質土器、製塩土器、土師質管状土錘	
田山東	散布地	中世期～近世期	ピット、落ち込み	瓦器、土師質土器、白磁、瓦質土器、土師質真蛸壺、陶器、中世瓦、片岩	
田山東	散布地	中世期～近世期	落ち込み	瓦器、土師質土器、瓦質土器、土師質真蛸壺、陶器	
田山東	散布地	中世期		瓦器、土師質土器、瓦質土器、スサ入り焼土塊	
田山東	散布地	中世期		土師質土器、土師質真蛸壺、土師質管状土錘、中世瓦	
田山東	散布地	奈良時代～中世期		土師器、須恵器、瓦器、土師質土器、土師質真蛸壺	
田山	集落跡	奈良時代～中世期	土坑	須恵器、瓦器、土師質土器、土師質管状土錘	
田山	集落跡	中世期	土坑	瓦器、土師質土器、製塩土器、土師質真蛸壺	
貝掛範囲外					



尾崎海岸遺跡12－４区
トレンチ全景（南より）

尾崎清水遺跡12－１区
１トレンチ全景（西より）

尾崎清水遺跡12－１区
２トレンチ全景（東より）

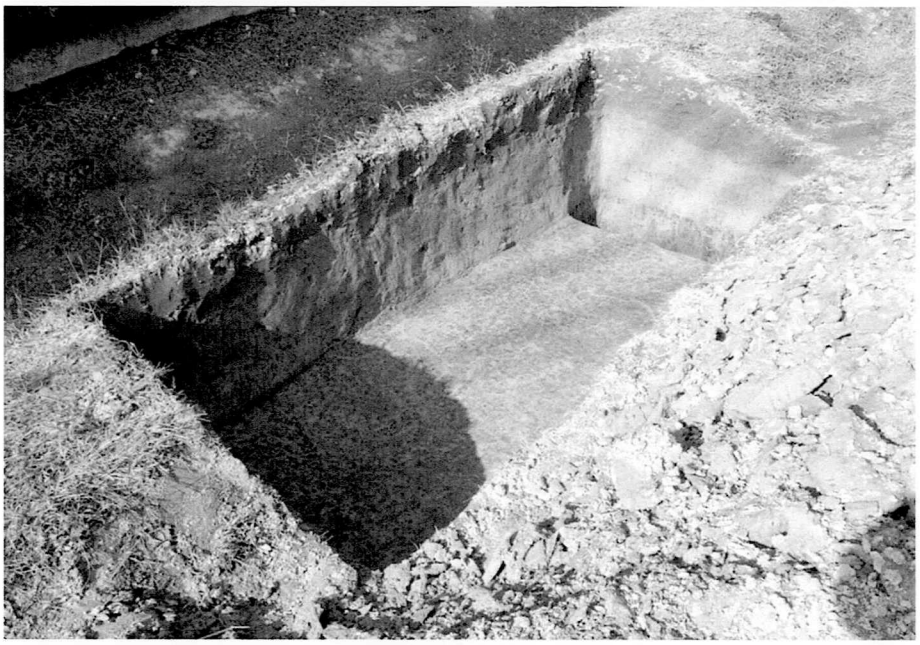


尾崎清水遺跡13－１区
トレンチ全景（北より）

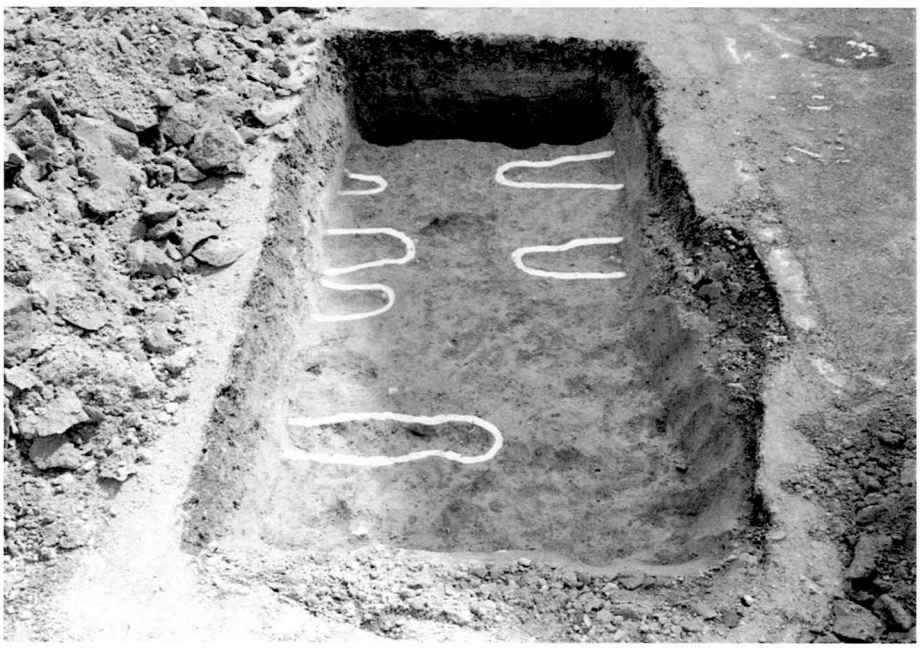
鳥取・鳥取南遺跡13－１区
トレンチ全景（西より）

鳥取南遺跡13－１区
１トレンチ全景（南より）

鳥取南遺跡13－１区
２トレンチ全景（北より）



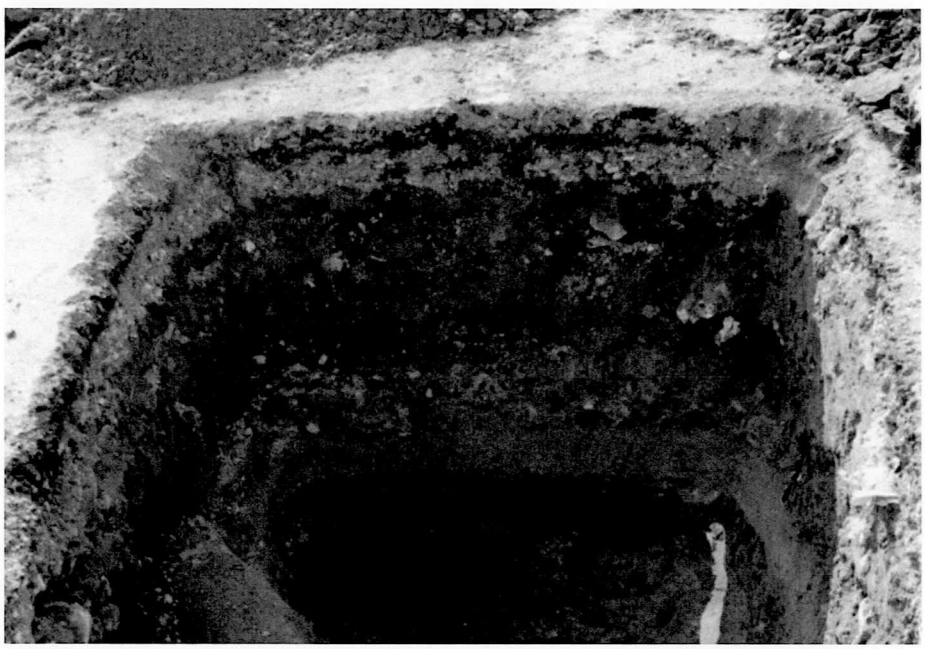
鳥取南遺跡13－１区
３トレンチ全景（西より）



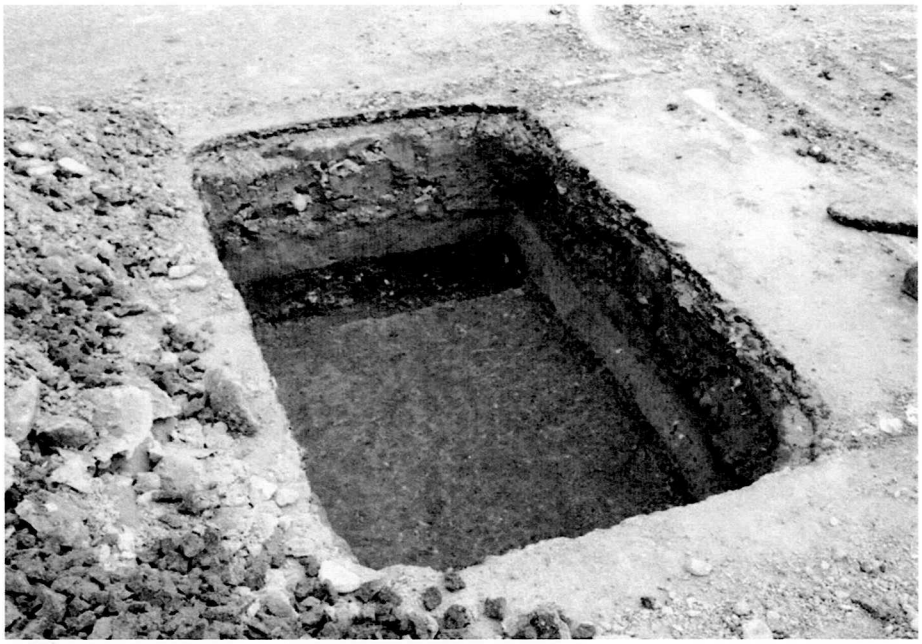
鳥取南遺跡13－２区
１トレンチ全景（北より）

鳥取南遺跡13－２区
２トレンチ全景（東より）

鳥取南遺跡13－２区
３トレンチ全景（南より）

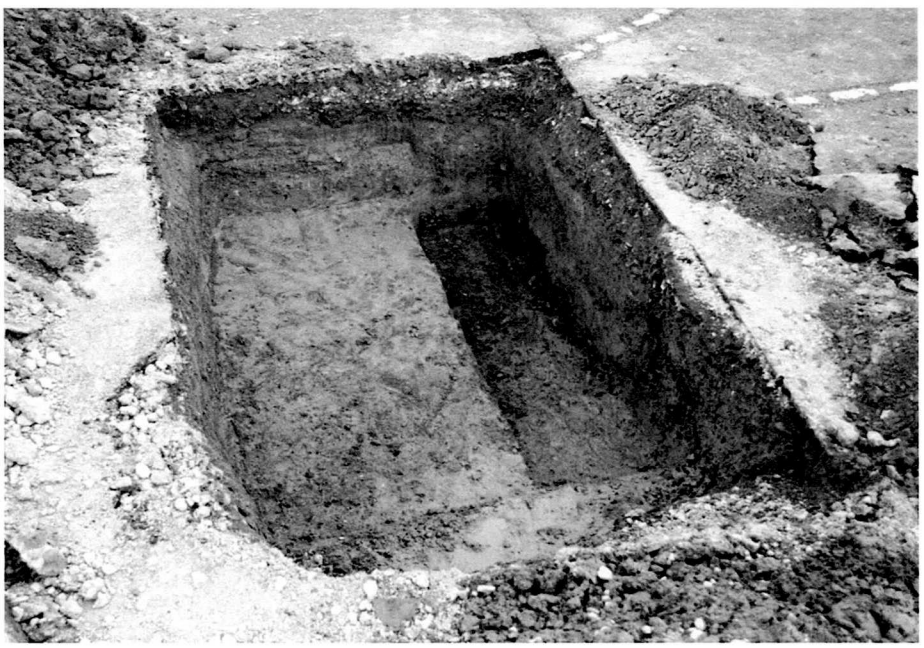


鳥取南遺跡13－２区
４トレンチ西側断面



鳥取南遺跡13－２区
５トレンチ全景（西より）

鳥取南遺跡13－２区
６トレンチ全景（南より）

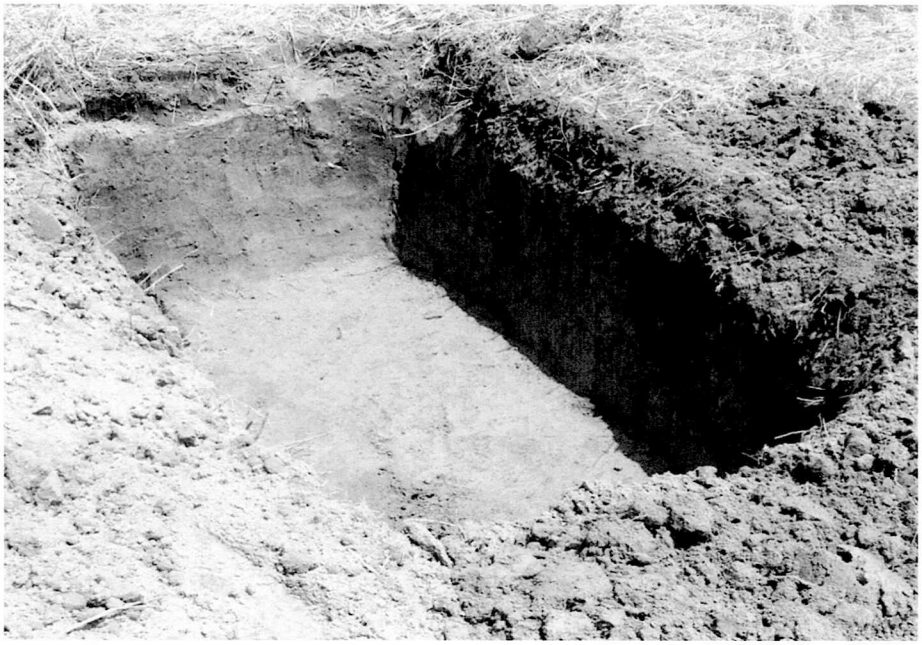


鳥取南遺跡13－２区
７トレンチ全景（北より）

鳥取南遺跡13－２区
８トレンチ全景（西より）

西鳥取遺跡13－１区
トレンチ全景（北より）

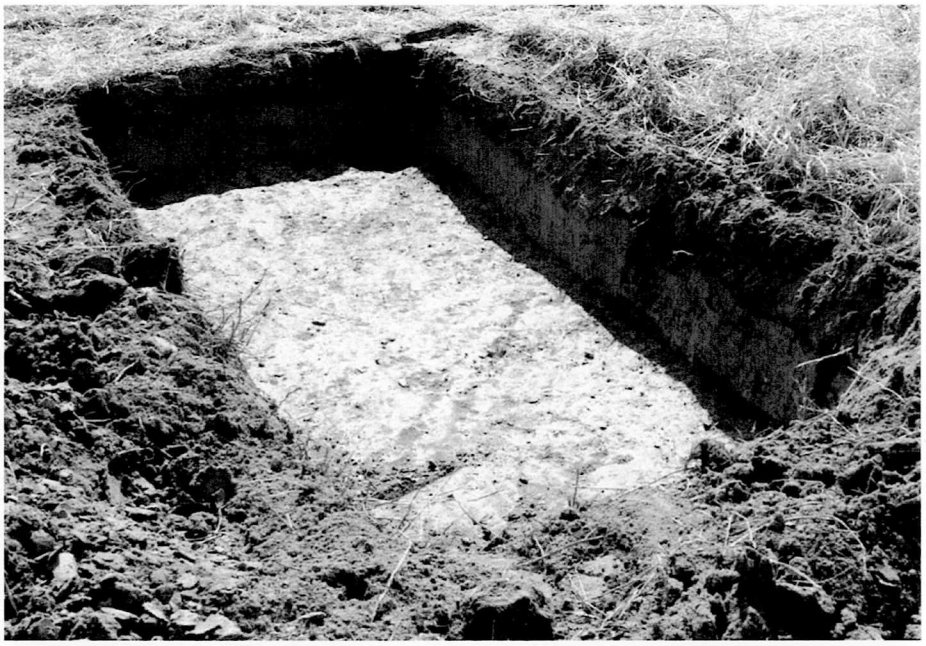
西鳥取遺跡13－２区
１トレンチ全景（東より）



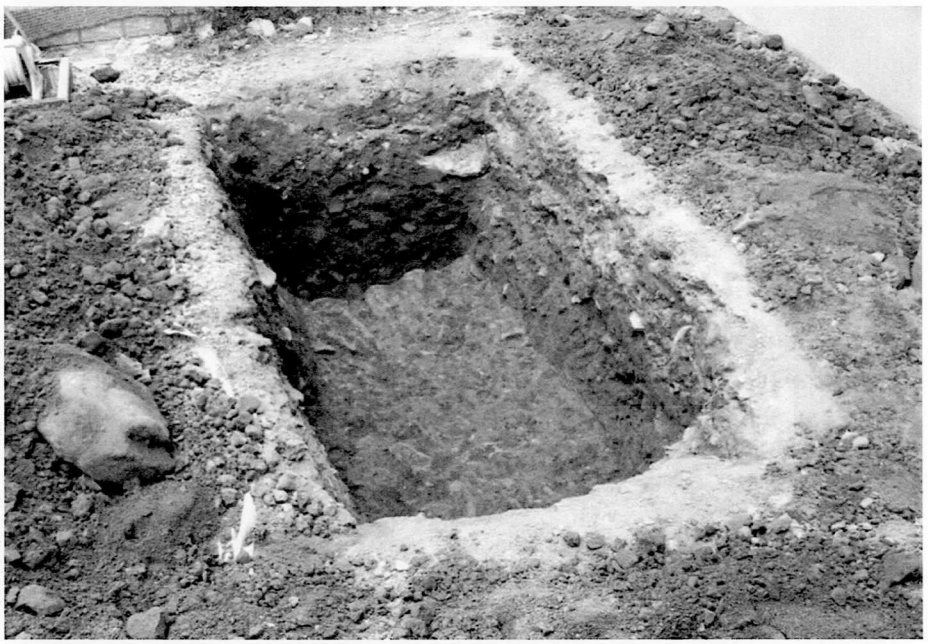
西鳥取遺跡13－２区
２トレンチ全景（南より）

西鳥取遺跡13－２区
３トレンチ全景（南より）

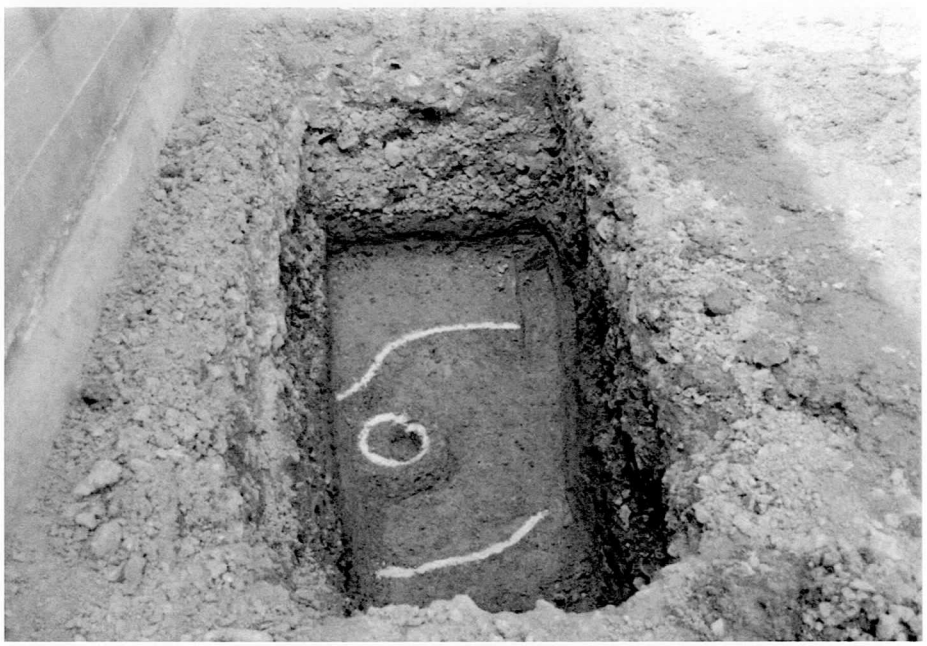
西鳥取遺跡13－２区
４トレンチ全景（南より）



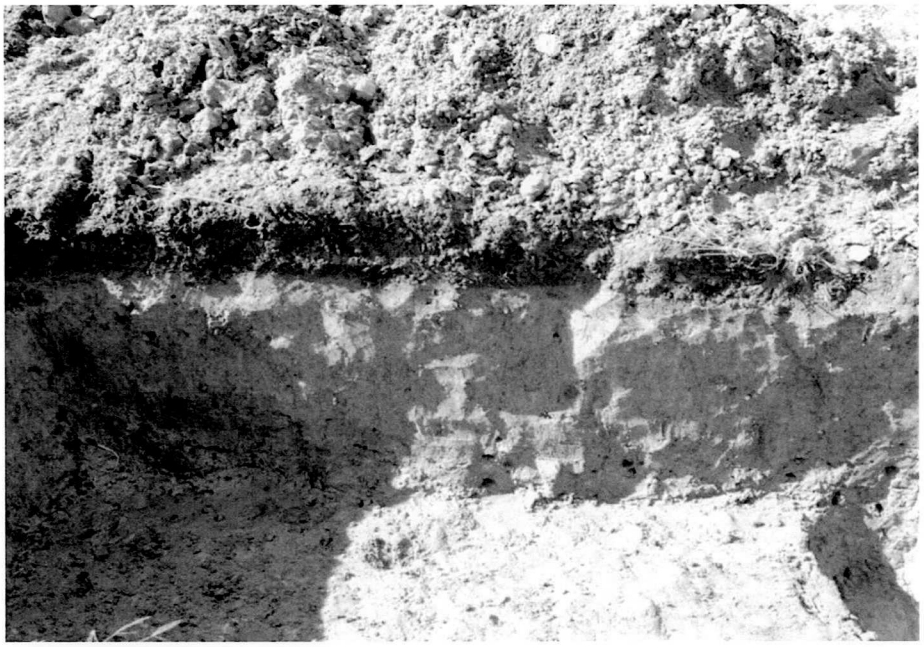
西鳥取遺跡13－２区
５トレンチ全景（北より）



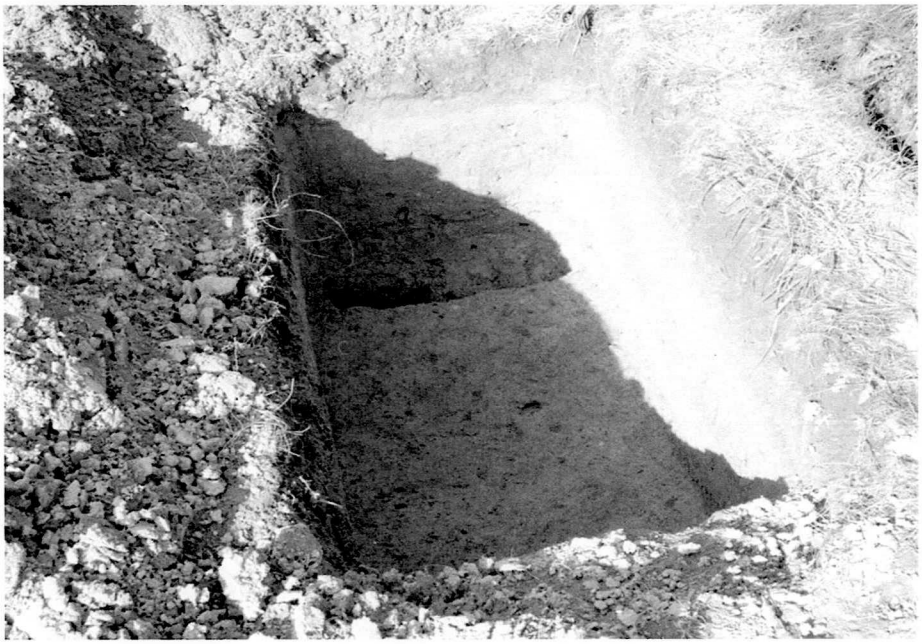
向出遺跡13－１区
トレンチ全景（南より）



自然田遺跡13－１区
トレンチ全景（南より）



貝掛遺跡13－２区
１トレンチ西側断面



貝掛遺跡13－２区
２トレンチ全景（南より）

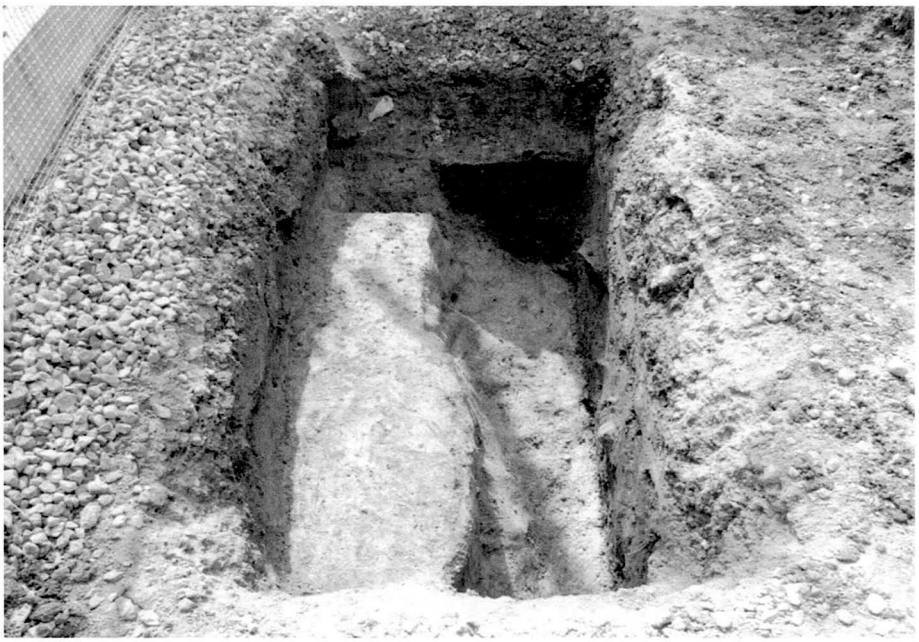
貝掛遺跡13－２区
３トレンチ北側断面

貝掛遺跡13－２区
４トレンチ全景（北より）

貝掛遺跡13－２区
５トレンチ全景（東より）

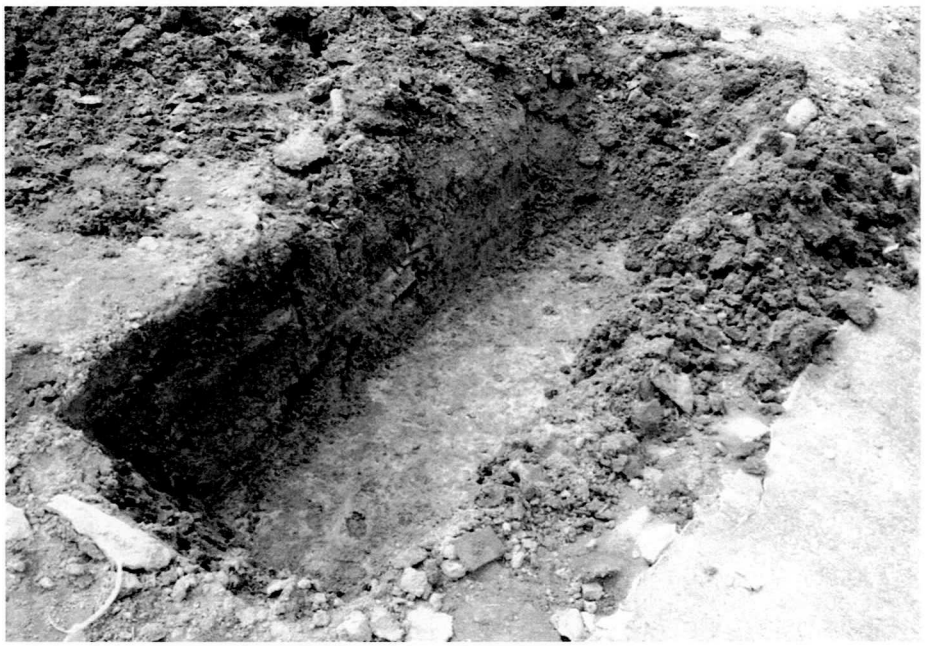
貝掛遺跡13－２区
６トレンチ全景（南より）

貝掛遺跡13－２区
７トレンチ全景（北より）



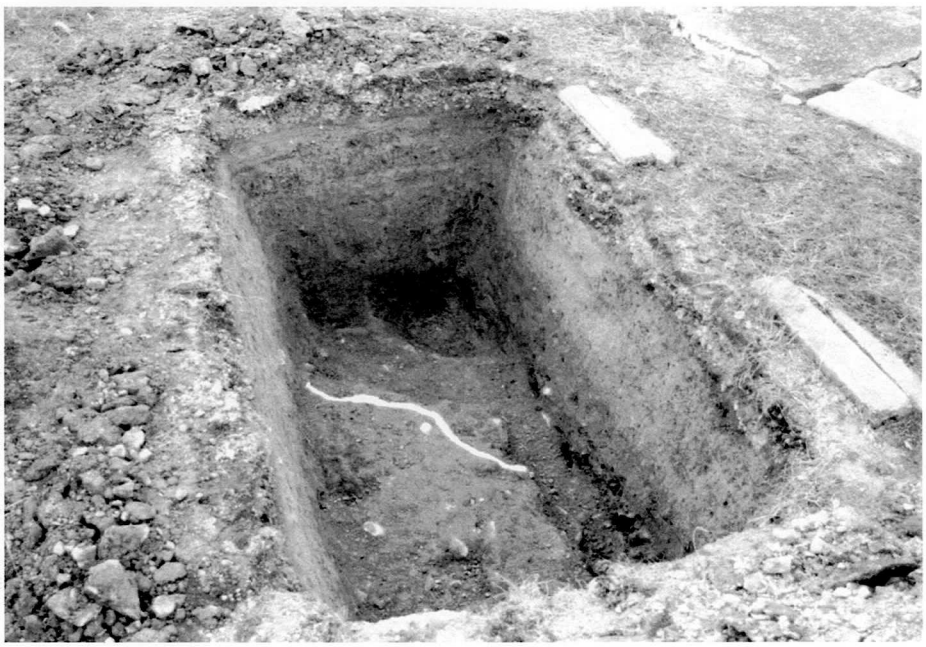
箱作今池遺跡12－４区
トレンチ全景（北より）

箱作今池遺跡12－５区
１トレンチ全景（北より）



箱作今池遺跡12－５区
２トレンチ全景（東より）

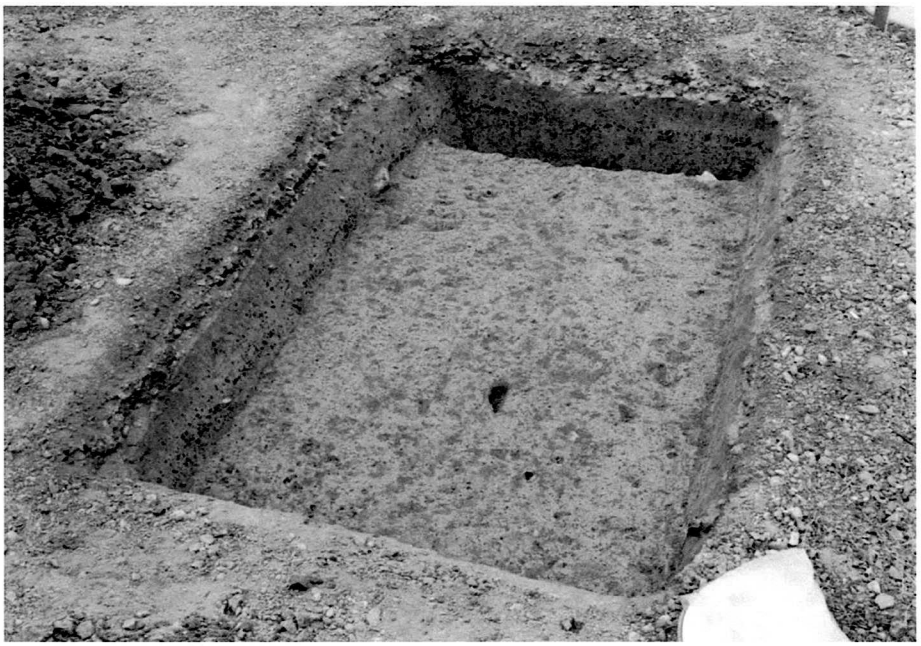
箱作今池遺跡12－５区
３トレンチ全景（北より）



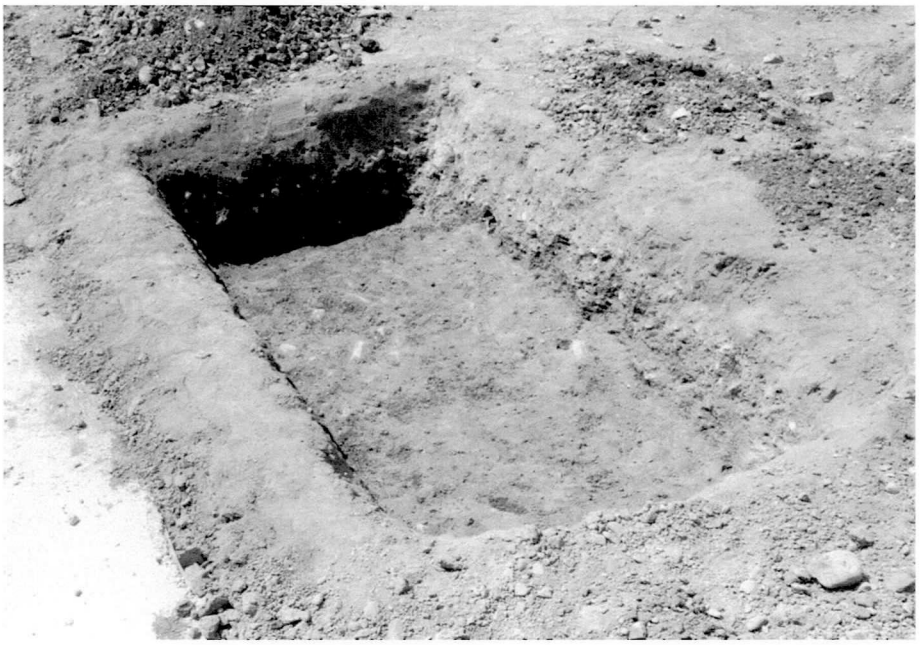
箱作今池遺跡13－１区
トレンチ全景（東より）

田山東遺跡12－８区
トレンチ全景（北より）

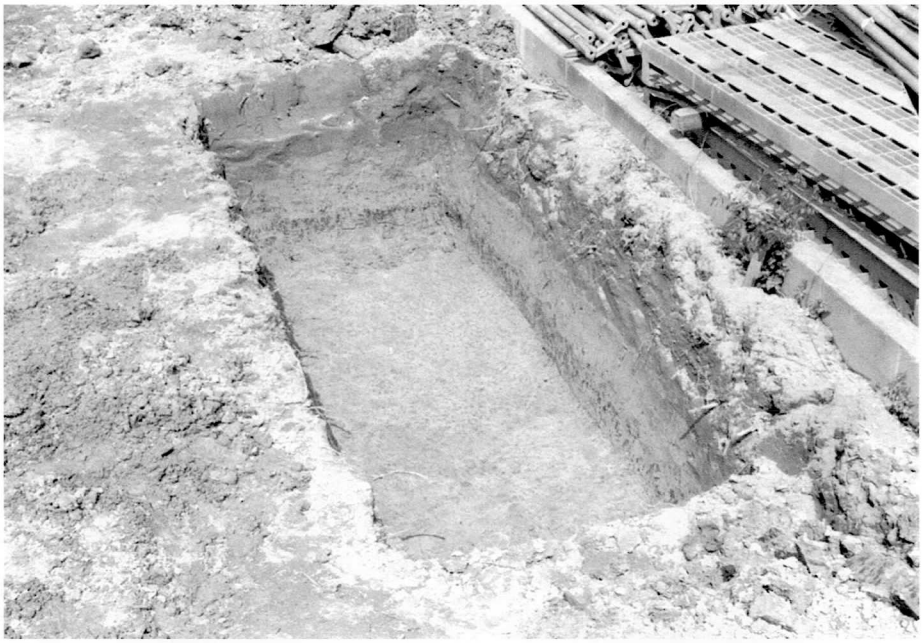
田山東遺跡13－１区
トレンチ東側断面



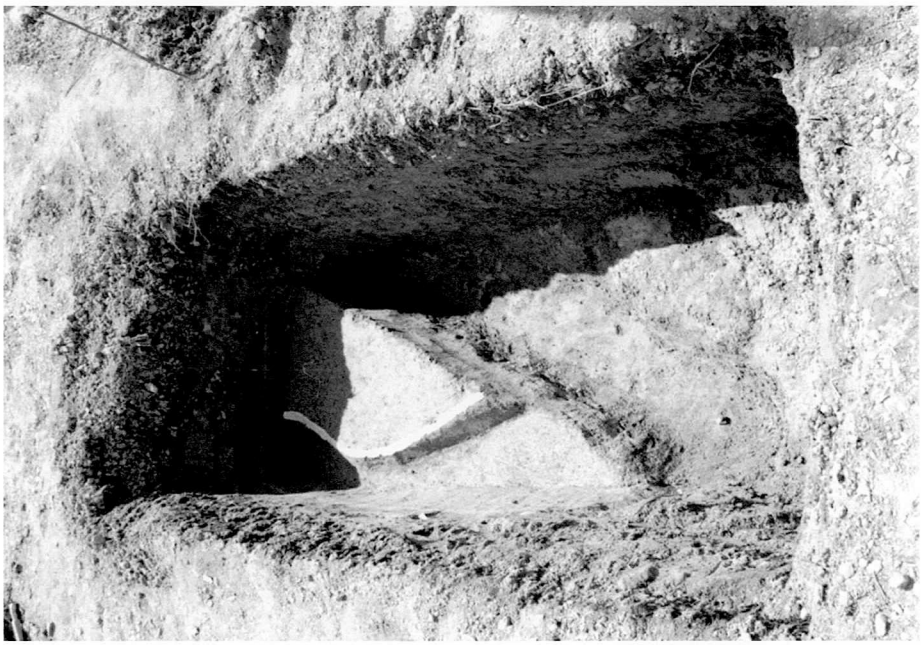
田山東遺跡13－２区
トレンチ全景（南より）



田山東遺跡13－３区
トレンチ全景（東より）



田山東遺跡13－４区
トレンチ全景（南より）

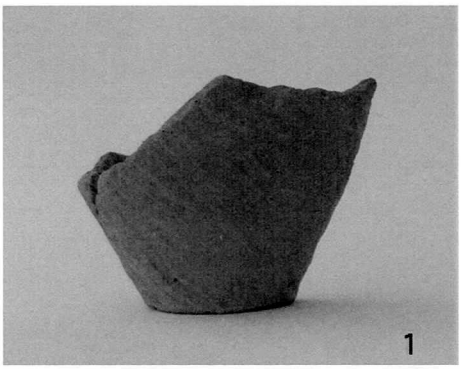


田山遺跡12－１区
トレンチ全景（北より）

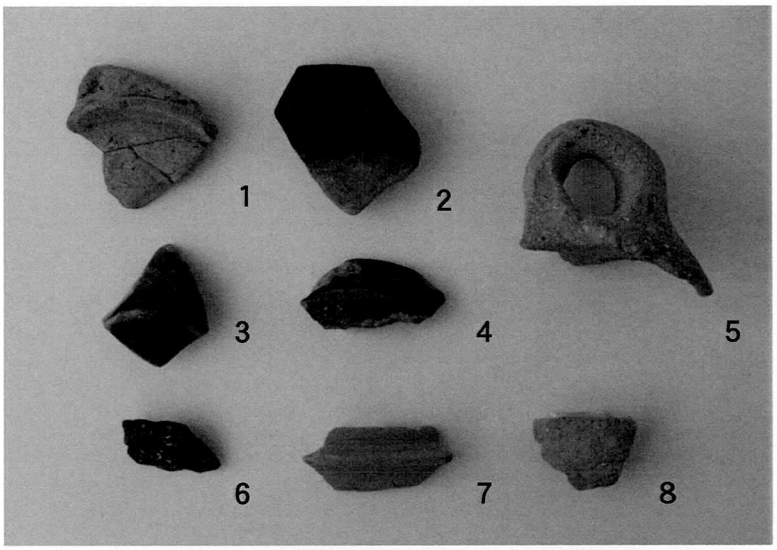
田山遺跡13－１区
トレンチ全景（東より）

貝掛範囲外13－１区
１トレンチ全景（西より）

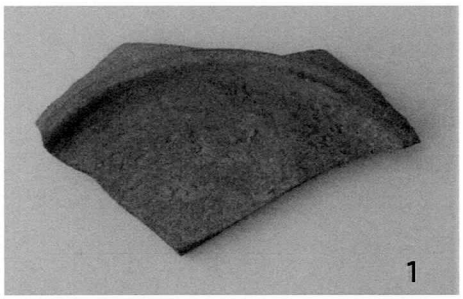
貝掛範囲外13－１区
２トレンチ全景（西より）



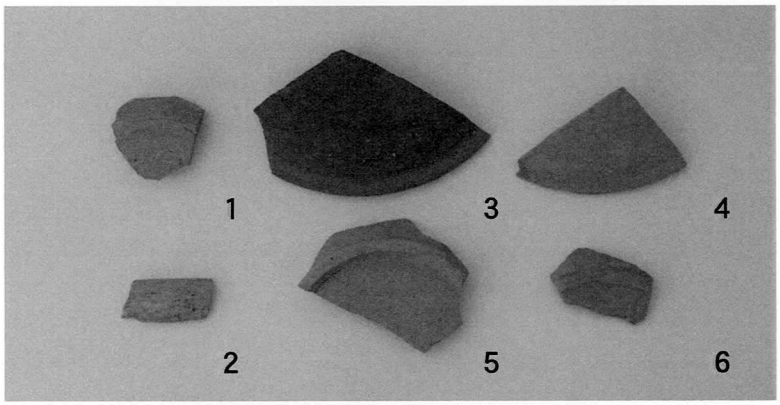
尾崎海岸遺跡12－４区　出土遺物



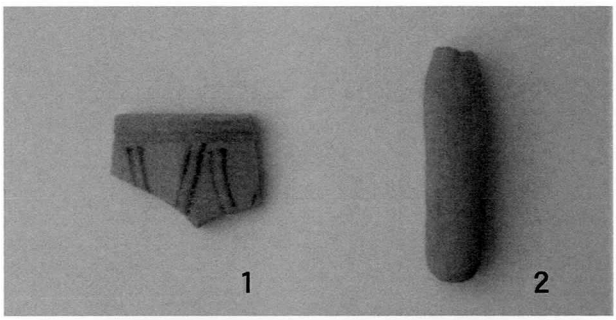
尾崎清水遺跡12－１区　出土遺物



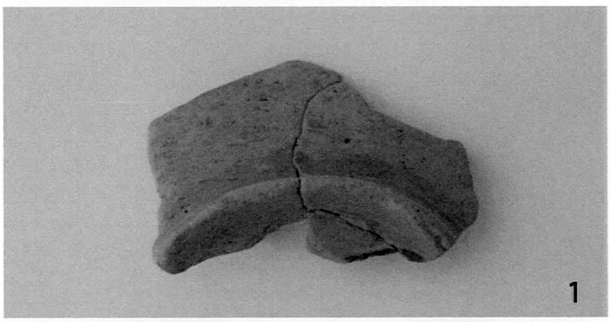
鳥取南遺跡13－１区　出土遺物



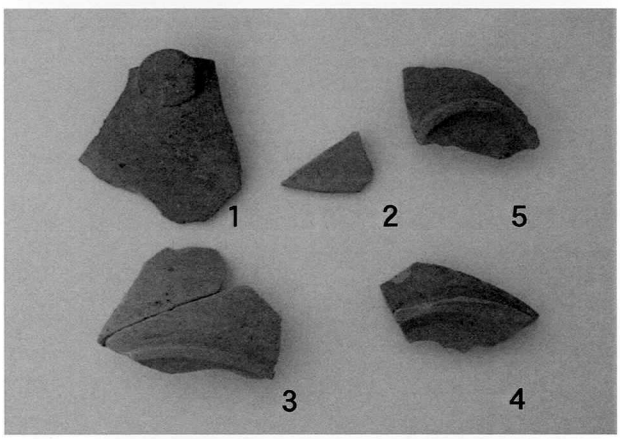
鳥取南遺跡13－２区　出土遺物



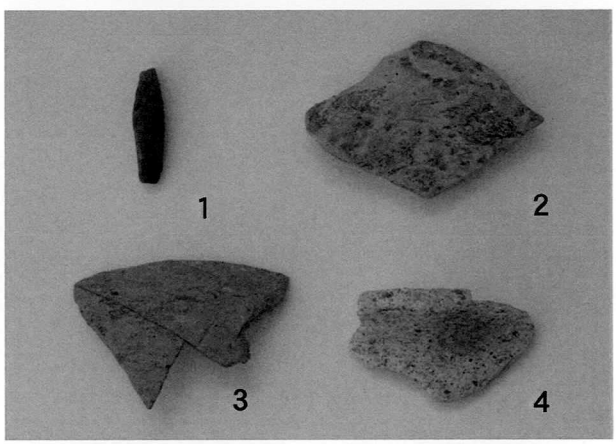
西鳥取遺跡13－１区　出土遺物



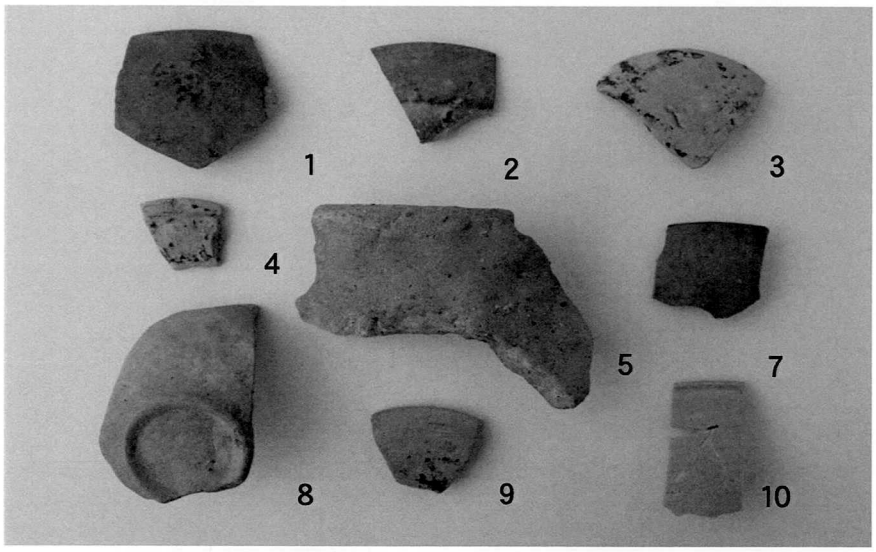
向出遺跡13－１区　出土遺物



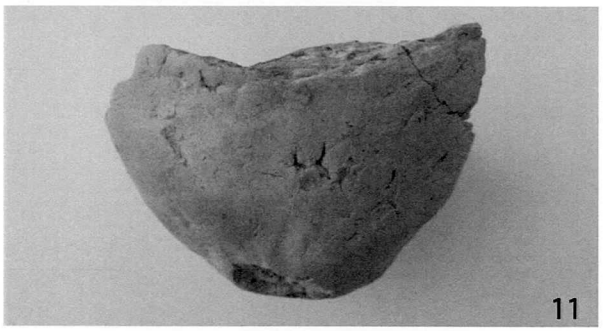
貝掛遺跡13－２区　出土遺物



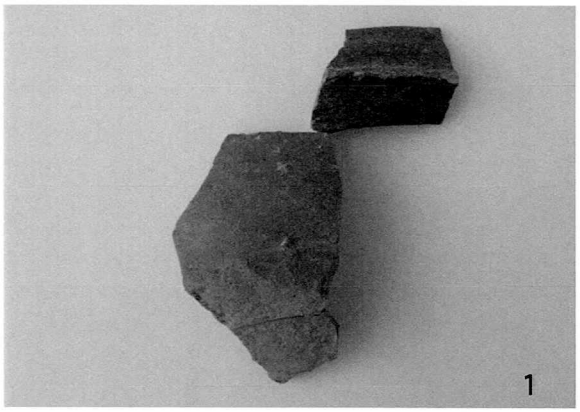
箱作今池遺跡13－１区　出土遺物



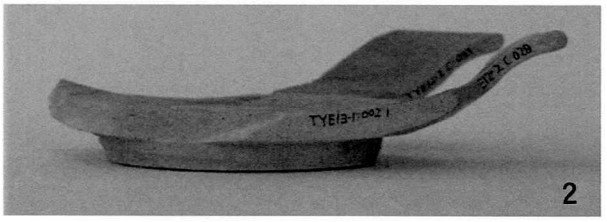
田山東遺跡12－８区　出土遺物



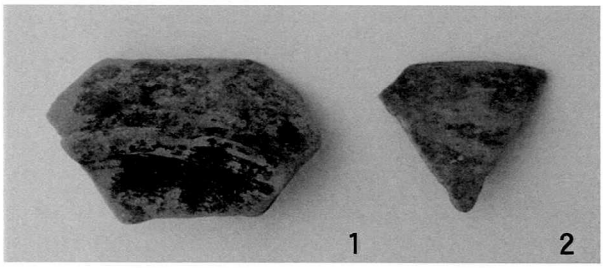
田山東遺跡12－８区　出土遺物



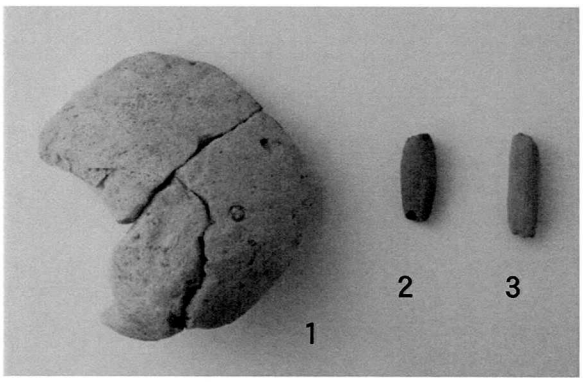
田山東遺跡13－１区　出土遺物



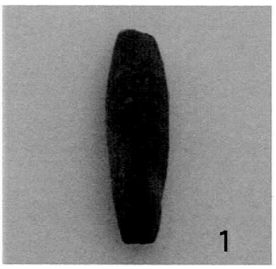
田山東遺跡13－１区　出土遺物



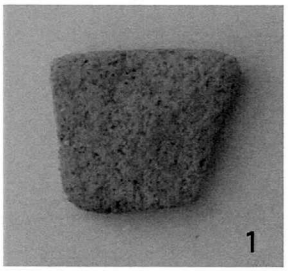
田山東遺跡13－４区　出土遺物



田山東遺跡13－３区　出土遺物



田山遺跡12－１区
出土遺物



田山遺跡13－１区
出土遺物

阪南市埋蔵文化財報告５２

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 31

２０１４年3月

発　行：阪南市教育委員会 生涯学習部
生 涯 学 習 推 進 室
大阪府阪南市尾崎町35の１

印刷者：株式会社　帯　谷　印　刷　所